

# 車体NEWS

## WINTER 2021 冬

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



道路維持作業用自動車  
(詳細はP.43を参照)

### CONTENTS

巻頭言	2
NEWS特集	
2021年度秋季会員大会を開催	3
・会長挨拶	
・講演会「SDGsで自分を変える、未来が変わる」	
講演会「2021年度大型トラック・バスの市場動向と 三菱ふそうの取組みについて」	7
カーボンニュートラル対応	9
2020年度会員企業の売上高／従業員数調査まとめ	11
NEWS FLASH	
本部だより	12
部会だより	16
支部だより	18
官公庁だより	19
会員情報	22
月度活動状況	23
NET WORK vol.105	
光源舎オートプロダクツ(株)	27

VOICE STAGE 93	
日本カーバイド工業(株)	29
ビーワイディージャパン(株)	30
そこが知りたい 第51回	
「インフラ整備?」	31
働くクルマたち 第35回	
「コンクリートミキサ車」	33
Coffee Break	35
いどばた会議 第8回	
「おすすめ文房具」	37
我が社の元気人	39
DATA FLASH	
2021年4月～9月会員生産状況概要	40
編集後記	43



バス・自動車用床上張材

リーズナブルであらゆるニーズに対応

**ロンマット SP**  
従来品と比べ約40%軽量  
**ロンマット SPL**

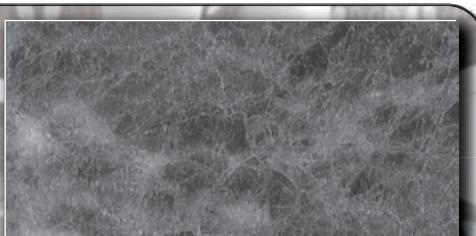


大小のフレークチップで多彩な意匠表現

**ロンマット Z3**

ファッショニ性豊かなデザインでコーディネートが自由自在

**デザインフロア S**



ぬくもりを感じさせる木目調でほっと落ち着く空間に

**ロンクレオ**



ロンシールでは車両用、建材の床シートの開発・販売を行っています。自動車向け床上張材として難燃 JABIA を取得し、路線バスや観光バスなどの大中型バス及び小型バス、マイクロバスを含むバス車両から、トラックやバス車両、乗用車をベースに様々な装備を架装した特装車まで幅広く採用されております。

<https://www.lonseal.co.jp/> 素材で、工法で、技術力で、床や壁、屋上、産業資材を創造する。

**ロンシール工業株式会社**

〒130-8570 東京都墨田区緑四丁目 15 番 3 号

産業資材・フィルム営業部

Tel : 03-5600-1848

Fax : 03-5600-1845

# 巻頭 言

## 車体メーカーの 使命とは

トラック部会長 山田 和典  
山田車体工業(株) 代表取締役社長



2019年4月よりトラック部会長を拝命し、早3年が経過しようとしています。2年目からは世の中がコロナ禍に突入し、2021年度のトラック部会活動も面着での定例部会等、主だったものは中止せざるを得ず、リモートでの役員会、委員会の開催等に留まる状況となっています。コロナ禍の世の中もほぼ2年が経過しようとしていますが、まさに失われた2年と言っても過言ではなく、一日でも早い終息を願うばかりです。

トラック部会は現在77社、ほぼ全社が中小会員の部会です。中小企業ならではの同族系企業が多く、事業承継問題など共通の話題も少なくありません。また、車体工業会の活動は交流や情報交換の場としての側面もあり、そこから会員個社同士の連携に発展していくこともあります。コロナ禍で面着での活動が難しくなったことで、改めて「交流の場としての車体工業会」の意義に気づかされた感じです。

そのような中、世間ではコロナワクチンの接種が進み、特に10月に入ってからは全国の感染者数も日増しに減少しています。いよいよトラック部会も11月以降は感染防止に留意しながら、当初予定していた工場見学会や定例部会を再開していく予定でいます。その際には、これまでの間Web併用というかたちで開催されていた本部の総会、理事会、講演会などの運営内容等も、諸々参考にさせていただきたいと思っています。

近年、車体工業会を取り巻く環境変化も目まぐるしく、CASE、カーボンニュートラル等、問題、課題は山積みです。例えばCASEにおいては、シャシのEV化に伴う架装物の動力源の問題、またカーボンニュートラルについても、我々中小会員の事業活動にどのように影響してくるのか等々、新たに生じてくる、これらの様々な問題や課題について、トラック部会においても中小会員の立場で真剣に議論していきたいと思っています。

昨年度以降、トラック部会関連の生産台数も減少に転じる中にあって、当部会特有の大型平ボデーの生産は底堅いものがありました。中にはこのようなコロナ禍の中にあっても、生産台数は少数ながら、納期が2~3

年待ちのボデーもあります。以前、我々の業界の先輩が「平ボデーは風呂敷だ」と言っていました。平ボデーは、あらゆるものと積むことができる、という意ですが、かつてはシート掛けなど荷役作業の大変さに敬遠されがちなこともありましたが、一方で平ボデーでなくては運べない荷もあります。近年一部のお客様からは逆に平ボデーが足りないなどという声も聞かれるようになりました。また、昨今の平ボデーはお客様の様々なニーズを受け、仕様も多岐にわたり、かつ複雑化しつつあります。我々ボデーメーカーも今後共お客様の新たなニーズに的確かつタイムリーに対応し、益々お役に立てるよう不斷の努力を続けていかねばならないと思っています。私は平ボデーのみならず、ボデー架装の事業はニッチかもしれませんのが、まだまだ大きな可能性があると考えています。

日本国内の企業は99.7%が中小企業です、我々中小会員もその一員であり、我々が今後共元気に事業を継続していくことは、日本経済が元気になることに繋がると思います。今後来るべくアフターコロナの時代に中小企業が元気でいること、またその技術を次代に伝え、永く存続し続け、そして進化、発展し続けることで、日本経済の発展に寄与できるのではないかと思います。

また、我々トラック車体メーカーが提供している「働くクルマ」は、日々、様々な分野でお客様の事業や人々の生活を支えています。多種多様な「働くクルマ」は、それぞれ多くの専門メーカーによりつくられているのですが、その全てのメーカーにも、将来に向けて、つくり続け、存続し続ける使命があると思います。そして我々車体メーカー一社一社が切磋琢磨し、社会や経済に貢献できるよう、協力し前に進んでいくことを強く期待する次第です。

末筆ながら、まだまだコロナ禍は続いているが、車体工業会会員各社の益々のご繁栄を祈念申し上げますとともに、各社従業員の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。

# 2021年度秋季会員大会を開催

2021年度秋季会員大会が、10月22日、東京會館丸の内本館においてWeb併用で開催され、会場出席役員14名、Web出席66社96回線と多くの会員が出席した。

宮内会長からの挨拶に続いて、川庭昌弘氏による講演会「SDGsで自分を変える、未来が変わる」が行われた。

宮内会長

## ■会長挨拶

会員の皆様には日頃から、当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウィルス感染拡大が落ち着きを見せておりますが、2021年「秋季会員大会」は 昨年に引き続き、会場とWebとの併用開催とさせていただきました。ご案内させていただきましたところ、多用中にもかかわらず、多くの会員の皆様にご出席をいただき、開催することができましたことに、心より感謝申し上げます。

新型コロナウィルス感染症に関しましては、医療従事者の皆様をはじめ、多くの皆様がこれまで 取り組んで来られたことに対し、あらためて感謝申し上げます。

また、本年も豪雨などに見舞われ、各地で災害が発生しており、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。幸い、当会の会員様におかれましては、甚大な被害はないとの伺っておりますが、お困りのことがございましたら、事務局にご遠慮なく、ご相談いただければと思います。

さて、本年度4月から9月の当会会員生産台数累計は、98万台、前年比107%となっております。そして、カーメーカーからの委託生産車を除く、当会特有車種を見ますと、特種車、バン型車、トレーラが前年同期を下回ったものの、その他は回復傾向を示し、7万7千台、前年比103%となりました。ただし、2019年比では83%であり、本格的回復には至っていない状況です。なお、下期の生産台数につきましては、半導体不足、及び東南アジアを中心とした部品供給不足によるシャシ生産への影響が懸念されます。現在、様々な対策が講じられており、下期合計では、前年を超えるレベルになるものと考えております。ただし、生産における

る課題といたしまして、原材料価格の高騰が深刻であり、今後の動向に注視が必要です。

当会活動では、昨年度の対応を踏まえ、新型コロナウィルス感染拡大防止を図るため、5月の通常総会をはじめ、本部委員会活動、各部会活動につきまして、一部役員の方が会場出席され、会員の皆様にはWeb出席をお願いし、対応いただいたことに感謝申し上げます。

それでは、当会の事業計画の進捗状況についてお話しさせていただきます。

今年度も当会活動の基本であります、

「安全対応活動の推進」

「環境対応自主取組みの推進」

「中小企業支援活動の推進」

「活性化活動の継続推進」

の主要活動4項目について活動しております。

そうした中、政府の2050年カーボンニュートラル(CN)宣言を踏まえ、自動車5団体が連携しCNに取り組んでいくことを確認いたしました。当会では7月に「CN専門委員会」を設置し、具体的活動を開始いたしました。委員会活動では、CNが環境軸での取組みに加え、電動車の普及などに対しましては、技術軸での取組み、さらに、CNを全会員様が一緒に手をつないで取り組んでいく必要がありますので、相互連携、支援策の展開などを迅速に行うため、関係委員会活動との連携強化を図ってまいりますので、よろしくお願ひいたします。

会員様へのアンケート調査では、CNへの取組みを理解いただき、100%の回答をいただきました。ありがとうございます。

# NEWS 特集

ざいました。そして、アンケートでは 会員様のお困り事や、取組みへのご意見を 多数頂戴いたしました。まずはそれらにお応えすることとして、パンフレットの展開、車体NEWSでの説明を行わせていただき、10月26日には第1回勉強会をトライとして開催させていただきます。その場でのご意見やご感想につきましては、その後の勉強会に反映させていただき、皆様のCNへのご理解、そして個社、各自の活動に繋げていただけるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは次に基本的活動の進捗につきましてご説明いたします。

まず、第1項目の「安全対応活動の推進」につきましては、「後退時車両直後確認装置」に関し適切な対応に向け、関係官公庁、関係団体と連携し範囲認証の審査、検査方法等を調整させていただいているところです。また、「後退時警報装置」につきましては、国際会議で決定した装置取付け範囲への設置に向け、製品毎の対応を検討しているところです。日本の「手積み式塵芥車」は欧州で使用されていないため、規格ではなく、現時点では技術仕様書として発行していただき、今後の状況によりあらためて規格化に取り組むことといたしました。「架装物コネクテッドWG活動」では、通信仕様を要望書としてまとめ、シャシメーカー一殿と調整させていただく計画です。2018年度から取り組んでおります、「架装物の安全点検制度」に関しましては、会員様にご協力いただき、制度登録会員数の増加に取り組んでおりますが、点検実施率向上への取組みも重要と考えております。取組みにあたりましては、引き続き会員の皆様のご理解とご協力を願っています。

第2項目の「環境対応自主取組みの推進」では、環境基準適合ラベル取得の推進に取り組んでおります。会員の皆様とのコミュニケーション、更に部会の協力も得ながら個社の課題解決にも取り組み、今年度に入り12機種増加し、245機種となりました。そして、新環境基準適合ラベルは、3機種増加し、208機種となりました。これは会員の皆様のご理解とご協力のお陰であり、お礼申し上げます。今後もお困りのことがございましたら、会員の皆様とコミュニケーションを図りながら、一緒に課題解決に取り組んでまいりますので、遠慮なく相談いただければと思います。

継続して取り組んでおり、CO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様の協力のお陰で目標を達成できる見込みです。なお、環境委員会メンバーによる会員様への「CO<sub>2</sub>、産業廃棄物低減支援活動」につきましては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、10月に2社で実施し、11月に1社の実施を計画しております。

第3項目の「中小企業支援活動の推進」では、税制改正

や規制改革などの各種要望を提出し、その実現に向け関係団体と連携した取組みを推進しております。

税制改正要望では、自動車関係諸税の負担軽減、簡素化という基本的考え方のもと、当会特有の項目として、トヨタの環境性能割の適用除外などに向け、関係団体と連携し取組みを継続しておりますので、引き続きのご支援、ご協力を願っています。

「働き方改革関連法」への対応につきましては、アンケート結果から、2021年4月に中小企業も対象となりました、「同一労働同一賃金」への対応の分かり易い進め方や事例提供の要望にお応えするため、下期の中で具体的な展開を行ってまいります。活用いただくとともにご質問がございましたら事務局までよろしくお願いいたします。

最後に「活性化活動の継続推進」では、車体業界の認知度向上を図るためメディアニーズを把握しながら、プレスリリースの積極的な発信を行っております。

また、「中小会員ネットワーク強化WG活動」では昨年度策定した「車体業界の将来ビジョン」達成のための取組みのひとつとして、10月28日には第1回「営業マン勉強会」を開催いたします。そして、昨年に引き続き、会員の皆様の生産性向上や、省エネによるカーボンニュートラルへの取組みの参考としていただくため、会員様のご協力により提供いただいた、設備・治工具類の導入、活用事例を会員の皆様に展開させていただきますので、ご活用ください。

以上のように、本年度事業計画は、概ね計画どおり進捗していると判断しております。

なお、新型コロナウイルス影響により事業計画内容の見直しも発生しておりますが、下期に実効を上げる項目もあり、新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら活動してまいりますので、上期以上に皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

講演会を開催

# SDGsで自分を変える、 未来が変わる

(株)博報堂DYホールディングス  
グループ広報・IR室 CSR推進担当部長  
川廷 昌弘氏

2021年10月22日、秋季会員大会(東京会館丸の内本館)において、日本のSDGsの第一人者である(株)博報堂DYホールディングスの川廷氏を招いて講演会をWeb併用にて開催した。

高い熱量でSDGsを分かりやすく解説する川廷氏の講演で多くの参加者がSDGsへの理解を深めた。

川廷氏は、1972年に地球資源が有限であるとの提言がなされてからの「国連における持続可能な社会に向けた議論の潮流」を独自の視点で整理し、様々な国連の活動をパワーポイントを駆使しながら、SDGsが生まれた経緯について分かりやすく紹介。

1992年の地球サミットをきっかけに、2000年から15年間に亘り、取り組まれたMDGs(先進国が途上国に支援する格差是正目標)を経て、2012年にMDGs以降の目標に対しての議論が深まり、「環境保全」「社会開発」「防災減災」「ビジネス」「教育」を、別々に分けて考えるのではなく、連環した地球全体の問題として捉えるためにSDGsが考え出されたと解説。

2015年に国連で採択され、15年後の2030年をゴールとし、国ごとの達成度は毎年「Sustainable Development Report」で評価されている。

また特定の地域の問題ではなく、人類一人ひとりが自分や地域の課題を解決する「ローカライズ」がSDGsではとても大切であるという点も強調された。SDGs採択の経緯を知ることで、SDGsとは一体何であるのか、という後半の事例紹介をより理解することができる講演内容であった。

## 17の持続可能な開発目標「ゴール」を示す アイコンの日本語化の工夫

SDGsは短いフレーズとピクトグラムを組み合わせた17のアイコンで広まっている。

このアイコンは国連の機関でデザインされたものではなく、イギリスに拠点を置き、SDGs達成に向けて意欲的な活動を行っているProject Everyoneというボランティア団体が手掛けたもので、彼らの活動には世界中の民間企業が資金支援を行っている。

アイコンの日本語版は国連広報センターと博報堂の社員がチームとなって考案され、国内の国連機関、NGO、企業などの様々な意見を取り入れて完成した。

原文を直訳するのではなく、伝わりやすい呼びかけ言葉で作成し、他人事ではなく自分事として捉えやすく、大人から子どもまで誰もが使いやすいコミュニケーションツールになるように工夫されている。

例) 直訳すると「持続可能な生産と消費」→「つくる責任つかう責任」と分かりやすい言葉にした。



## 日本にはSDGsが根付いていた

近江商人の「三方よし」、二宮尊徳や渋沢栄一の格言に学ぶ日本企業は、昔からSDGsに近い意識が根付いていた。しかし、温暖化対策止まりで、2030年をゴールとした具体的な目標を持つ企業が少ないと指摘されている。

## 次世代との真剣な対話が大切

SDGsを共通言語にすると、世代を超えた対話を避けて通ることはできない。このままの未来に不安を抱く若い世代は、大人の事情を聞かされるのではなく、問題意識を共有できる大人を真剣に探している。

SDGsは「きれいごと」である。「きれいごと」で勝負できる社会を作り、次世代に質の高いバトンを渡すのが私たちの使命である。まずは自分が向き合う課題解決にヒモ付け、タグ付けし、どんな社会にしたいか、どんな自分でありたいかを考えいただきたい。それをどこの誰とでも共有できるのがSDGsというコミュニケーションツールであり、SDGsを語る大人たちにこそ、積極的に活用して次世代との交流を深め、問題解決に取り組んでほしい。

# ご存知ですか、このラベル。

環境にやさしい働くクルマについてます。

## “環境基準適合ラベル”

環境基準適合ラベルは、架装物解体作業の容易化、再生資源の適正な処理を促進する

“環境にやさしい車体”であることを証明する車体工業会で制定したラベルです。



### 環境基準適合ラベル ホワイトラベル

環境に配慮した  
3つの要件



- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)  
判断基準ガイドラインの作成・活用
- 製造者名、樹脂部品材料名の表示
- 解体マニュアルの作成・公開



### 新環境基準適合ラベル ゴールドラベル

ホワイトラベルに  
さらに3つの要件を追加



- + 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上
- + 車体工業会における  
「環境負荷物質自主取組み基準」  
を満たしている
- + ISO14001やエコアクション21など  
第3者機関による環境認証取得工場で生産



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

12 つくる責任  
つかう責任

SDGs  
私たちが持続可能な  
開発目標(SDGs)を  
支援しています。



環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録され掲載されています。<http://www.env.go.jp/policy/hozan/green/ecolabel/f01.html>



一般  
社団法人 日本自動車車体工業会  
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館15階 TEL(03)3578-1681 FAX(03)3578-1684

詳しくはWebページをご覧ください。

JABIA



[www.jabia.or.jp](http://www.jabia.or.jp)

## 講演会を開催

# 2021年度大型トラック・バスの市場動向と三菱ふそうの取組みについて

2021年10月14日、当会会議室において、三菱ふそうトラック・バス株式会社の菊池氏を招いて「2021年度大型トラック・バスの市場動向と三菱ふそうの取組みについて」のテーマで講演会をWeb併用にて開催した。会場参加役員6名、Web出席86社160回線と多くの会員が参加した。

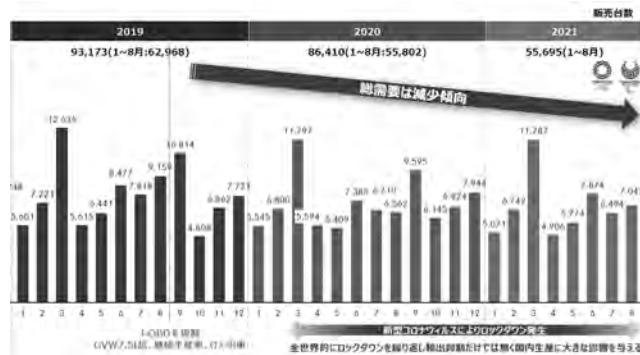
## NEWS 特集



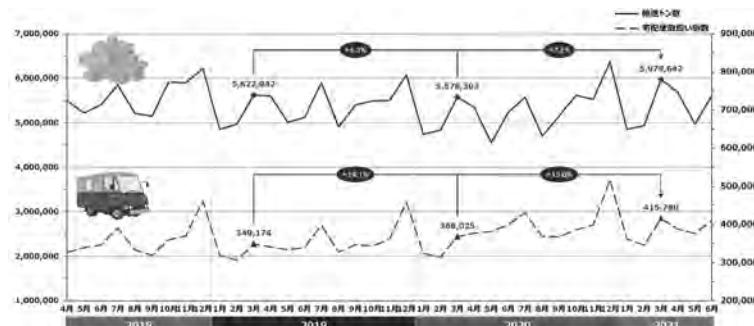
三菱ふそうトラック・バス株式会社  
国内販売・カスタマーサービス本部  
販売統括部 国内商品計画部  
菊池 直樹 氏

### 大型トラック・バスの市場動向

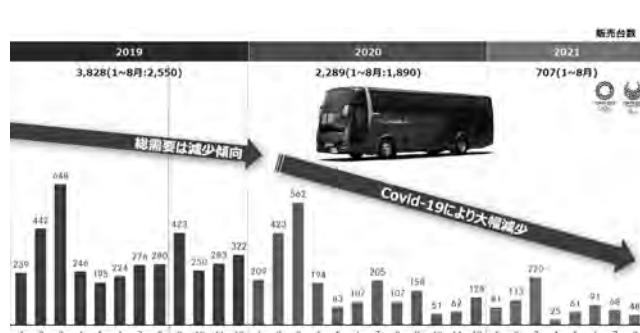
大中型トラックの総需要は、2019年から減少傾向。オリンピックイヤーでの需要に期待はあったが、新型コロナウイルス禍の影響により2021年も減少が続いている。



輸送量や宅配便個数は、2019年から比較して増加傾向にあることから、コロナ禍の影響が収束し、国内生産が安定すれば需要は回復すると予想される。



大型バスの総需要は、2017年から減少傾向。コロナ禍の影響により2020年から大幅に減少。



### 物流業界を取り巻く環境

排出ガスや燃費基準の規制の強化、新免許制度の導入、安全装備義務化、自動運転などの大きな変革に加え、菅前総理大臣の所信表明演説において、2050年までにカーボンニュートラル実現を目指すなど激動の時期を迎えていく。

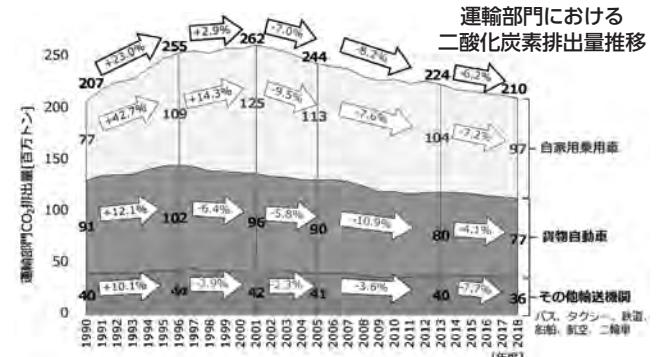
2021年6月2日の成長戦略会議において、商用車については、8t未満の小型車は2030年までに新車販売の20～30%を、2040年までに100%(脱炭素燃料利用者含む)を電動車にする目標が掲げられた。大型車については、商用利用に適した電動車の開発・利用促進に向けた実証実験を進めながら、2020年代に5,000台の先行導入を目指している。

#### 運輸部門における二酸化炭素排出量

我が国各部門におけるCO<sub>2</sub>排出量



2018年度における運輸部門の二酸化炭素排出量は、日本全体の18.5%を占めていたが、自動車の燃費改善等により、2001年度以降は減少傾向に転じている。



自工会を中心とした自動車業界では、2050年カーボンニュートラル方針について、「全力でチャレンジする」としているが、ガソリン車の販売禁止だけで実現できることではなく、充電設備や水素ステーション等のインフラの整備が重要であるため、政府からの大きな支援が必要となる。

## 重大事故抑制の取組み

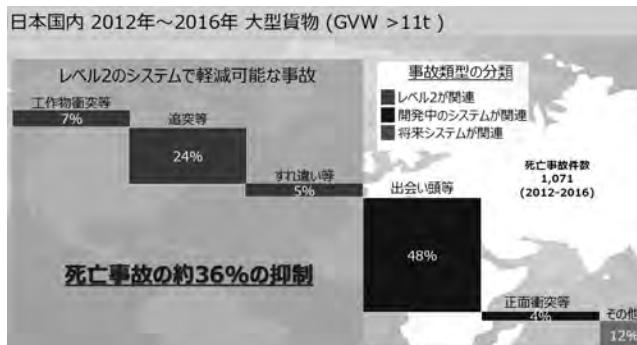
トラックが関係する事故は、重大事故に繋がりやすい。事故を起こした会社は、顧客の信頼喪失や、業務停止命令等の行政処分を受けてしまい、経営にも大きく影響する。

運送事業者では、厳格な運行管理や安全運転講習会、ドライバーの健康管理等の対策に加え、安全装置搭載車両の導入も進められている。2021年11月以降に販売される総重量3.5t以上の新型トラックにASV(先進安全自動車)の装着も義務化された。

2019年10月、三菱ふそうトラック・バス株式会社は、国内初となる自動運転レベル2の高度な運転支援機能を搭載した大型トラック「スーパーグレート」を発表した。



ブレーキとアクセル、ステアリング操作をサポートするレベル2の運転支援機能でドライバーの疲労を大幅に軽減することができる。ブレーキアシストや自動ハイビームの他、交通標識を認識してディスプレイに表示する機能も備えている。最新モデルには緊急停止機能や左折時巻き込み防止機能も搭載された。



レベル2の高度運転支援技術導入により、国内の大型トラックが関係する死亡事故の減少が可能

また、ダイムラー・トラックグループと共同でレベル4の自動運転トラック開発を目指している。この開発にはすでに米国アリゾナ州で自動運転レベル4の無人タクシーの商用サービスを始めているウェイモ社も参画している。

## 自動運転の実現に向けて

国土交通省が主体となって多業種に亘る生産性革命プロジェクトの一つに、輸送効率化や自動運転の実現が掲げられている。乗用車や小型バスの自動運転は、東京オリンピック・パラリンピックの選手村を巡回して、選手や大会関係者をサポートすることに成功した。

商用車の自動運転試験では、2021年2月22日に新東名高速道路での隊列走行を実現。概ね良好な結果を得て、2023年以降の隊列走行の商業化、2025年度以降に高速道路におけるレベル4の実現を目指している。

政府目標である「2020年度内に高速道路におけるトラックの後続車無人隊列走行技術を実現する」ことを目指し、2021年2月22日に、新東名高速道路の遠州森町PA～浜松SA(約15km)において、後続車の運転席を実際に無人とした状態(後続車助手席には、保安要員が乗車した状態で実施)でのトラックの後続車無人隊列走行技術を実現しました。

今回実現したトラックの後続車無人隊列走行技術は、3台の大型トラックが、時速80kmで車間距離約9mの車群を組んで走行するもので、無人状態で車間距離維持や先頭車追従を可能とするものです。



## 環境問題への対応

地球温暖化問題によって、商用車を取り巻く環境は、ここ数年、目まぐるしい変化をしている。企業の社会的責任が世界的に重要視されるようになり、環境問題に貢献しない企業はイメージダウンを受け経営にも多大な影響をもたらしてしまう。

三菱ふそうトラック・バス株式会社は2017年に世界で初めて、量産型電気トラック「e-Canter」を発売し、2019年の東京モーターショーでは燃料電池トラックの発表も行った。

200台以上の販売実績のデータから、電気トラックによる輸送がランニングコストとCO<sub>2</sub>排出量の削減に繋がっていることが明らかになっている。「e-Canter」の2020年モデルでは、安全装備を更に充実させ、電動トラックの普及を促進していく。

## 走行コスト(180,000km走行)試算

ティーゼル車				
軽油1ℓ (円)	燃費 (km/l)	距離 (km)	費用 (円)	総排出量 (kgCO <sub>2</sub> )
110	7.0	180,000	2,828,540	67,372

e-Canter				
電気1kWh (円)	電費 (km/kWh)	距離 (km)	費用 (円)	総排出量 (kgCO <sub>2</sub> )
15	1.92	180,000	1,406,250	0

180,000km走行で  
1,422,290円の削減



# カーボンニュートラル対応

カーボンニュートラル(以下CN)については、菅前総理大臣が2020年10月26日の所信表明演説において、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、日本は2050年CN、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。気候変動対策を協議する国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)が、会期を1日延長し、10月31日～11月13日にイギリス・グラスゴーで開催され、世界の平均気温の上昇を産業革命前から1.5°Cに抑える努力を追求し、石炭火力発電を「段階的に削減」することなどが合意された。

当会では、CN専門委員会を立ち上げ、8月27日より活動を開始し、会員の皆様からいただいたアンケートの結果に基づき、パンフレットの送付(その1～3)、勉強会の開催等を実施している。

今回は、こうした活動内容について紹介する。

## CNアンケート結果

会員の皆様にご協力いただき、回答率は100%を達成した。皆様のご協力に感謝申し上げます。以下、結果概要報告。

### 1. カーボンニュートラルについて知っていますか?(図1)

全体で約70%が理解、社内活動の実施割合は低い

中小企業からは、「何をすれば良いかわからない」等のコメント多数

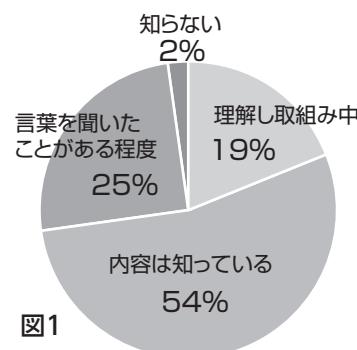


図1

### 2. カーボンニュートラルを意識した製品開発に取り組んでいますか?(図2)

情報不足を含め、65%がCN取組み判断ができず困っている状況

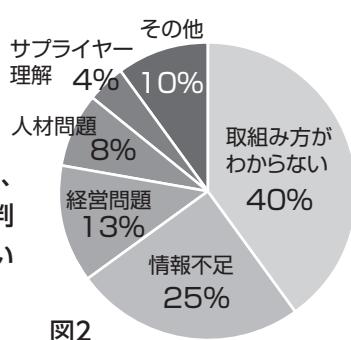


図2

### 3. 生産領域、管理業務において困っていること(図3)

取組み方が分からない、取り組んでいないが約60%  
特に中小企業は半数が取り組んでいない

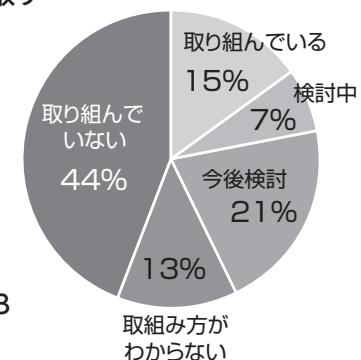


図3

### 4. トラックシャシ電動化による架装動力の問題に伴う車体工業会への要望(図4)

シャシメーカー  
情報提供・連携強化への期待が高い

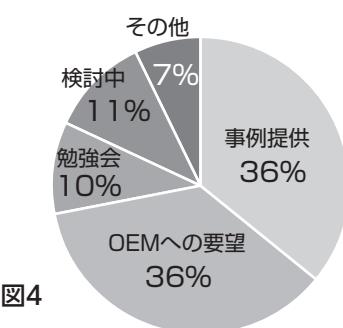


図4

### 5. 車体工業会への期待すること(図5)

事例提供、勉強会への期待が約70%

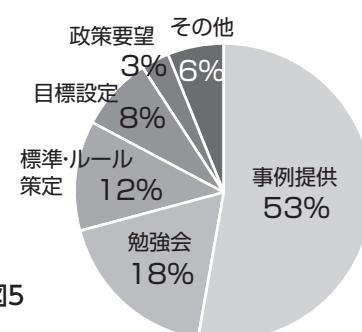


図5

以上の結果を踏まえ、パンフレットによる情報提供、勉強会の開催等を開始した。その活動内容について以降で紹介する。

## CNパンフレット

CNに関する情報をパンフレットで会員の皆様に電子メール、ホームページ、車体NEWSと同時に紙配信で提供

その1：カーボンニュートラルを知りましょう(8/4発行)

その2：カーボンニュートラルアンケートの状況(8/31発行) 簡易版CO<sub>2</sub>算出ツールの提供

その3：カーボンニュートラル取組み状況(11/4発行)

今後も必要な情報は、パンフレットを通して提供していく。

## CN勉強会

アンケートで多くの要望があり、会員の皆様の理解を深めていただくこと

を目的に第1回勉強会を開催した。

開催日時：2021年10月26日(火)10:00～11:15

開催方法：Teamsによるオンライン開催

内 容：・カーボンニュートラル(CN)とは？

- ・車工会アンケート結果
- ・CNIに何故、取り組む必要があるのか？
- ・CN取組みの進め方

講 師：トヨタ自動車東日本(株)PE・環境部 松井部長

受 講 者：各部会の中小企業中心に19社21名

結 果：図6の通り、勉強会前後で大きく理解度が向上

参加者全員が、自社の今後の活動に「活かせる」「どちらかといえば活かせる」と回答。狙い通りの効果が得られた。

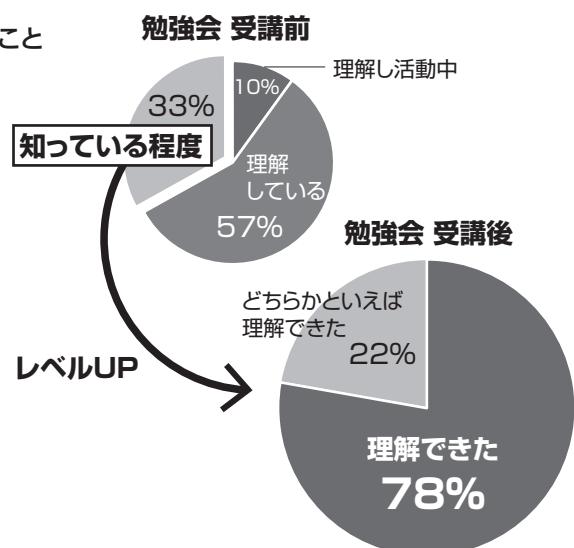


図6 第1回勉強会アンケート結果

## 架装物動力源検討WG

トラックシャシ電動化に伴い、架装物の動力源に関する課題を論議、整理し、対応を検討するためのワーキンググループを立ち上げ、論議を開始した。第1回WG(8/26)、第2回WG(10/28)、第3回WGは12月22日予定。

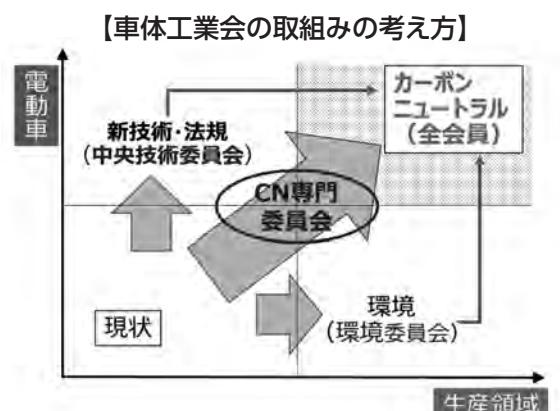
## ★世界の動向(COP26)

イギリス・グラスゴーで10/31～11/13に行われたCOP26において、岸田総理大臣は、気候変動という人類共通の課題に我が国として総力を挙げて取り組んでいく決意を述べた。以下、岸田総理大臣のスピーチ抜粋。

「2050年カーボンニュートラル」。日本は、これを、新たに策定した長期戦略の下、実現していきます。2030年度に、温室効果ガスを、2013年度比で46%削減することを目指し、さらに、50%の高みに向け挑戦を続けていくことを約束します。(中略) 日本は、世界の必需品である自動車のカーボンニュートラルの実現に向け、あらゆる技術の選択肢を追求してまいります。2兆円のグリーンイノベーション基金を活用し、電気自動車普及の鍵を握る次世代電池・モーターや、水素、合成燃料の開発を進めます。イノベーションの成果をアジアに普及し、世界をリードしてまいります。(以下略)

## ●車体工業会の取組み

- ◆自動車5団体連携活動を踏まえ、CN専門委員会活動を柱に、本部委員会、各部会、各支部と連携し、「CN対応の取組み」における、電動車(技術)、生産領域への対応と「中小会員支援策」に会員の皆様と『手をつないで進めて行きたい』との考え方で、引き続き取り組んでいく。
- ◆好評であった勉強会は、第2回を12/2、第3回を12/20に実施し、より多くの方に、CNを知りたい活動を継続する。



## 2020年度会員企業の 売上高／従業員数調査まとめ

例年正会員に実施している売上高等について本年度調査結果がまとめたので概要を報告する。(2021年7月に調査、売上高は2021年3月に最も近い決算期、従業員数は2021年3月末現在)

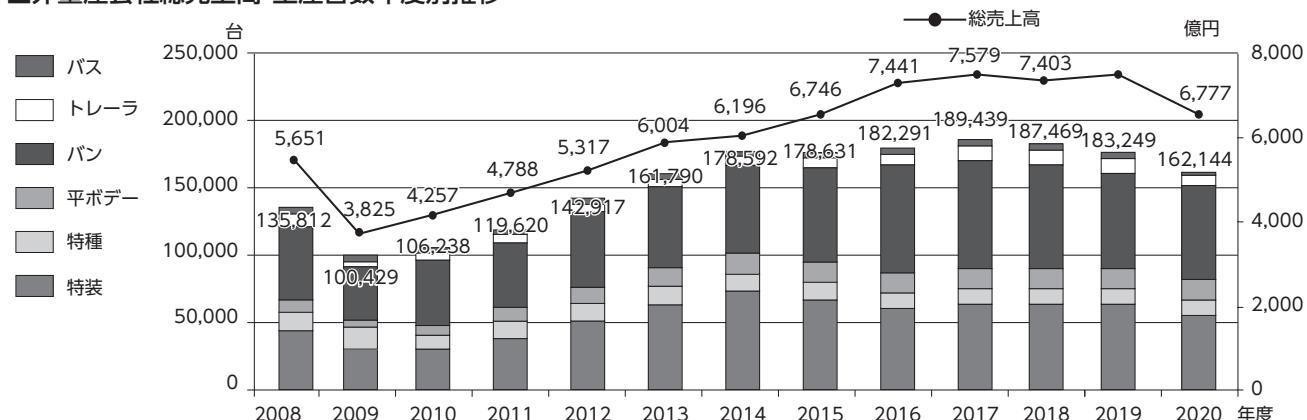
### 1. 売上高・生産台数について

- 会員会社全体の車体製造に係る総売上高は、6兆3,136億円となり、前年度比98.0%
- 委託量産会社を除く非量産会社の総売上高は、6,772億円となり、同89.7%
- 非量産車の生産台数は、162,144台で同88.5%と減少  
内訳では、全車種が減少、特にバス、バンが減少した。

#### ■会員会社年度別売上高推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	対前年度比
調査会員数(社)	163	163	167	170	183	184	184	186	188	195	195	198	202	—
車体部門 売上高 (億円)	45,168	41,413	40,291	43,228	51,684	52,124	50,446	54,437	57,166	57,927	61,087	64,457	63,136	98.0%
非量産会社 総売上 高(億円)	5,651	3,825	4,257	4,788	5,317	6,004	6,196	6,746	7,441	7,579	7,403	7,551	6,772	89.7%

#### ■非量産会社総売上高・生産台数年度別推移



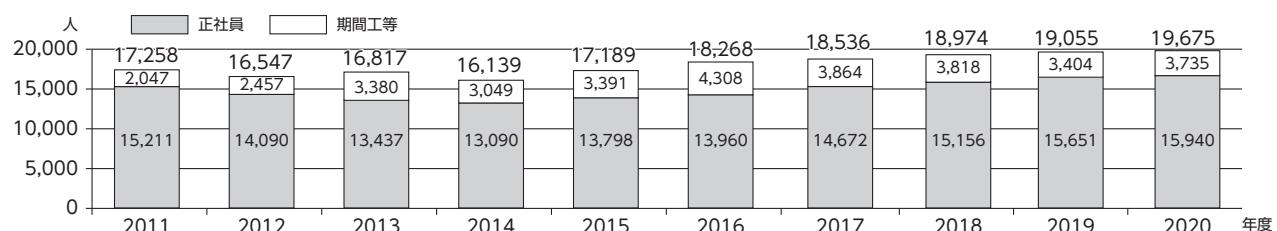
### 2. 従業員数

- 車体部門の従業員総数は前年度比98.0%、内訳は正社員 同96.8%、期間工等 同102.3%
- 非量産会社の従業員総数は前年度比103.3%と統計を取り始めた2011年以降で最大の従業員数。  
内訳は正社員 同101.8%、期間工等 同109.7%

#### ■従業員数

従業員数	2019年度				2020年度				前年度比		
	計	正社員	期間工等	期間工等比率	計	正社員	期間工等	期間工等比率	計	正社員	期間工等
車体部門	61,022	48,307	12,715	21%	59,776	46,765	13,011	22%	98.0%	96.8%	102.3%
非量産会社	19,055	15,651	3,404	18%	19,675	15,940	3,735	19%	103.3%	101.8%	109.7%

#### ■従業員数推移(非量産会社)



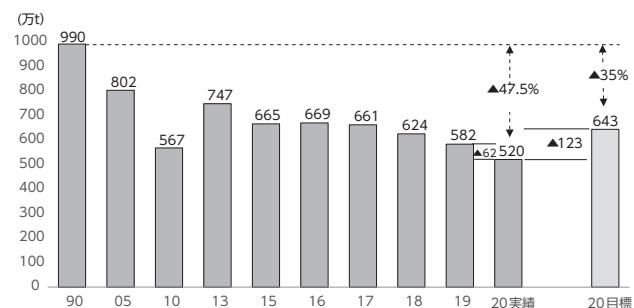
### ■環境自主取組みのフォローアップ結果

環境委員会工場環境分科会(分科会長:杉山透・トヨタ車体(株)PE環境部室長)はCO<sub>2</sub>排出量、VOC排出量の調査結果を下記の通り報告した。

#### 1. CO<sub>2</sub>排出量

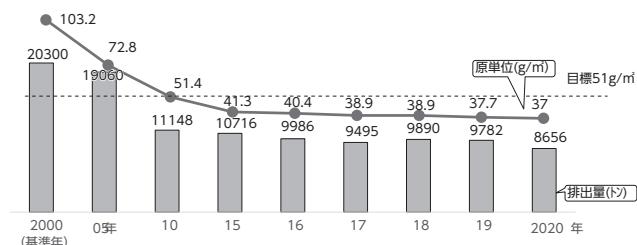
CO<sub>2</sub>削減は2008年度から自工会と一体となった活動を実施しており、経団連のカーボンニュートラル行動計画と連動した2021年度調査結果(2020年度実績)両工業会合算排出量は、2020年度目標値643万t-CO<sub>2</sub>(1990年度比▲35%)に対して、実績520万t-CO<sub>2</sub>(同▲47.5%)、目標比▲123万tの超過達成。対前年は▲62万t。内訳は台数減少(949万台→797)▲49万台、電力排出係数改善▲4万台、自助努力▲9万台。

#### <CO<sub>2</sub>排出量推移(自工会+車工会)>



#### 2. VOC排出量

2020年度排出量原単位は37.0g/m<sup>3</sup>と目標(51.0g/m<sup>3</sup>)を達成。サブ目標である排出量も達成。各社地道な工法改善、材料見直し等により低減。



### ■環境委員会「CO<sub>2</sub>排出量・産業廃棄物低減の会員現地支援・指導」を実施

工場環境分科会(分科会長:杉山透・トヨタ車体(株)PE環境部室長)は、会員のCO<sub>2</sub>排出量・産業廃棄物の低減活動として訪問による支援・指導を推進中である。2021年度第2回目を10月15日に(株)トノックス(神奈川県平塚市)、第3回目を10月21日に(株)東洋ボーダー(東京都武蔵村山市)、第

4回目を11月25日に京成自動車工業(株)(千葉県市川市)へ各々計4名のチームで訪問、実施した。

(株)トノックスでは、既に太陽光発電を積極的に導入、工場屋根へ軽量化パネルを設置し電力使用料の50%相当を発電。廃棄物低減では歩留り向上を軸に、実績の把握と可視化を推進している。訪問の中で、バンパー養生材(ミラシート)や木製パレット処分量増加への対策を図りたいとの要望に対し、委員から引取業者や活用策の情報を提示。一方で、軽量化太陽光パネルの情報をお持ち帰るなど、双方向で有意義なコミュニケーションが図られた。



太陽光パネル



ミラシート



(株)トノックス 意見交換

は、太陽光発電の導入に向け工場屋根への設置工事を進められており、コンプレッサー小型化やCO<sub>2</sub>排出係数の高いLPGから都市ガスへの変更、木製平ボーダー部材として木材から竹の集積材への転換が図られ、高い意識で環境対応に取り組まれていた。廃棄シンナーへの困り事に対しては、後日委員から保有情報を提供した。

(株)東洋ボーダー 意見交換

京成自動車工業(株)は、工場照明全体のLED化、空調の工夫等行われる一方で、住宅街の中の工場立地の制約等から大規模な対策が容易でない中での今後のカーボンニュートラル(CN)に向けた意見交換を



京成自動車工業(株) 工場LED照明

行った。

工場環境分科会では2021年度中に更に1社への訪問を予定。また、今後車体工業会会員全てにCNの活動が求められる中、支援強化を進める必要があると考えている。  
～お困り事相談～

環境関係、また今後のCN推進に向け

困り等あれば、環境委員会事務局(TEL.03-3578-1681)へご相談ください。



## ■環境委員会「環境ラベル取得講習会」を開催

架装物リサイクル分科会(分科会長・伊東慎・日本フルハーフ(株)開発第一部主査)は、車体工業会会員の“環境にやさしい車体”を証明する「環境基準適合ラベル」(ホワイトラベル)と「新環境基準適合ラベル」(ゴールドラベル)を運用しているが、昨年度からより一層の取得推進に向け活動を強化している。



2020年11月から毎月ワーキング活動を行い、1)会員の製作架装物がラベル取得に適当か否かを会員各社

のホームページから分析、2)取得が進まない要因を様々な観点から推論し訴求活動や規格の見直しに着手、3)部会との連携を強化し個別説明会の実施や部会に参加し取得依頼、4)7月には取得意義を明確化したうえで質問項目を刷新したアンケートを実施し取得の障害等実態把握と対策案を更に検討するなど、幅広く活動を行ってきた。

これらを踏まえ、これから環境ラベルを取得する意向、及び車工会支援を要望される会員への取得講習会の開催を10月の理事会で確認し、11月30日に最初の講習会を、特種部会会員を対象にWebで午前・午後の部に分け開催した。(午前の部は取得意向会員中心、午後の部は車工会支援要望ありの会員を中心に各々4社が参加)



環境ラベル取得講習会参加会員

会員には、経営層、及び開発責任者またはラベル取得活動責任者に参加いただき、講師は分科会長及び委員が務め環境ラベルの意義から申請上のポイントを説明、また特別ゲストとして2021年度に新規に環境ラベルを取得された会員にも参加いただき、先輩体験談を披露いただいた。

取得に向けてのハードルや困り事を聞き出し、具体的な取得時期のコミットメントをいただけたケースもあった。引き続き2022年1月14日にトラック部会・バン部会、1月30日に特装部会の会員を対象に行う計画である。

## ■環境委員会「環境ラベル取得推進ポスター」を作成し配布

架装物リサイクル分科会(分科会長・伊東慎・日本フルハーフ(株)開発第一部主査)では、未取得会員の新規ラベル取得、また既取得会員の機種追加や新環境基準適合ラベル(ゴールドラベル)への移行促進を図るべく、現在展開中の環境ラベル広告をベースにSDGsの取組みとの整合を織込んだポスターを新規に作成し、対象となる会員向けに配布した。(本誌6ページに掲載)

会員の皆様におかれましては、是非社内の見やすい場所に掲示いただきますようお願ひいたします。また、電子データでの提供も可能ですので、必要な場合は車工会環境事務局(メールアドレス:kankyo@jacia.or.jp)までご連絡ください。

## ■自動車5団体活動ホームページの開設

2020年4月より、自動車工業4団体[日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車機械器具工業会]として新型コロナウイルス危機の克服と復興に貢献していく決意を表明した。同年夏以降からは、日本自動車販売協会連合会を加えた自動車5団体として連携を強化、コロナ禍の日本経済において自動車産業が牽引役になるべく、生産性向上や人財育成支援による競争力強化に向けた取組みを業界をあげて実施している。この度、自工会ホームページに自動車5団体の活動を紹介するページを開設し、550万人の仲間との連携/頼りにされる自動車産業/モノづくり基盤強化/カーボンニュートラルへの対応等に関する情報を隨時公開していく。



<詳しくは以下を参照>

<https://www.jama.or.jp/5organizations/>



## ■2022年度税制改正に関する要望

当会では、自動車関連税制並びに中小企業関連税制について、改正要望をまとめ、日本自動車会議所に提出した。自動車会議所は、当会要望も踏まえ、関係21団体からの要望を「2022年度税制改正に関する要望書」にとりまとめ、当要望書を関係省や国会議員へ提出・説明するなど要望活動を開始した。

なお、11月29日に開催された自民党自動車議員連盟主催の自動車政策懇談会には矢野副会長が出席し意見交換を行った。

### 「2022年度税制改正に関する要望」

#### 【重点要望項目】 太字：当会要望項目

##### ◆過重で複雑な自動車関係諸税の負担軽減・簡素化

1. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた税制抜本見直し

2050年CN実現は、**過重で複雑な自動車関係諸税(車体・燃料課税等)**を抜本的に見直す大きなチャンス

であり、ユーザー視点に立ちゼロベースで再構築すべき

2. 車体課税の見直し

①**自動車重量税の将来的な廃止を目指し、まずは「当分の間税率」の廃止**

②自動車税・軽自動車税の環境性能割は、消費税との二重課税であり廃止

3. 燃料課税の見直し

①**ガソリン税、軽油引取税に上乗せされたままの「当分の間税率」の廃止**

②ガソリン税・石油ガス税等の Tax on Tax の解消

4. 中長期的な見直し

**自動車関係諸税(車体・燃料課税等)の新税創設及び増税には反対**

##### ◆自動車関係税制に関わる要望

1. CN実現に資する電動車普及・促進のための税制措置

- ・CN実現に不可欠な電動車の普及・促進を図るための減免措置
- ・電動化に不可欠なインフラ整備に対する固定資産税等の減免措置

2. コロナ禍の経済状況を踏まえた軽減措置

3. 営業用自動車の軽減措置の維持

#### 【関連する要望事項】

I. 新型コロナウイルス感染症に係る税制措置

#### II. 自動車関係諸税に係る税制措置

(当会要望のトレーラの環境性能割の適用削除含む)

#### III. 自動車・エネルギー等に係る税制措置

#### IV. 中小企業等の法人課税に係る税制措置

V. その他

## ■自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する活動

当会も構成会員である自動車税制改革フォーラム\*では、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年と同様に、「街頭活動」と「ユーザーの声を集める活動」は中止し、ツイッターを活用した活動を11月～12月の2か月間実施する。

\* 自動車関連21団体で構成され、複雑で諸外国と比較しても高額な負担となっているわが国の自動車税制について、納税者である自動車ユーザーの視点から問題点を明らかにし、税の基本原則である「簡素・公平」で、「環境」に配慮し、「国際調和」に即した税制度を目指して様々な活動を行なっており、事務局は、日本自動車会議所。

#### 【ツイッターを活用した活動について】

トライアルで実施した昨年の実績を踏まえ、カーボンニュートラル実現に向けた視点も入れ込み、引き続き、広く一般に発信できるツイッターを活用しアピール活動を開催する。

##### ツイッター実施概要

実施期間 ・11/5(金)8:00 投稿開始

・11月～12月の2か月間を予定

(税制改正の議論やヒアリング、要望活動などが活発に行われる時期)

投稿頻度 ・週1回 毎週金曜日の朝8:00に投稿予定

・状況によっては週2回の場合もあり

・アカウント [https://twitter.com/carta\\_jp](https://twitter.com/carta_jp)

クルマで旅をして、全国の豊かな自然と文化を見てきました。皆さん、クルマってやっぱりいいよね。

1年間走ってみて、クルマの税金の高さに驚いたけど、脱炭素社会「カーボンニュートラル」の大切さも実感！

クルマが大好きなみんなと「クルマの税金」「カーボンニュートラル」を考えていきましょう。



## ■中央業務委員会「管理・監督者層合同研修会」を開催

中央業務委員会(委員長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、10月29日に「管理・監督者層合同研修」を11社21名が参加し、Zoomによるオンラインで開催した。

2015年度に特種部会で実施した「外部講師による合同研修」、2017年度に特種部会と中小会員ネットワーク強化WGメンバーの希望委員会社を対象として実施した「管理監督者層対象のマネジメント合同研修」のあとを受け、2018年度から、中央業務委員会として当会中小会員(特装・特種・トラック・バン各部会)を対象に実施している。

本研修は、PHP研究所の会場清晃氏を講師に招き、グループ討議を中心に、激動する社会情勢の中、より良き職場環境を築き総合力発揮のために、管理職としてのキャリアを踏まえ、基本的重要な留意事項を再確認し、各自の“マネジメント力&コミュニケーション力向上”のポイントについて学ぶ研修となっており、参加者からは、目的であった「基本的なリーダーシップ教育+コミュニケーション能力向上」のポイントを学び、学んだことは職場で活かすことができる内容が多く、大いに役立つものであったとの声が多く聞かれた。

オンライン研修による、同業他社の方との交流、情報交換が十分にできない懸念については、参加者のアンケート結果、昨年同様、研修中のグループ討議(Zoomのブレイクアウトルーム機能活用)を通して、ある程度の交流ができるとの回答が多く、オンラインでも問題がないことが改めて確認できた。

中央業務委員会では、来年度の研修会について、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、面着での開催復活も視野に入れた開催を検討していく。



PHP研究所 会場氏による  
車体工業会会議室からのオンライン研修

## ■中小会員ネットワーク強化ワーキング 「訪問ヒヤリング」を実施

中小会員ネットワーク強化ワーキング(リーダー・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、今年度第1回目の訪問ヒヤリングを、11月9日に(株)矢野特殊自動車(福岡県糟屋郡新宮町)を訪問し、工場見学及び会社の取組みについて意見交換を実施した。(株)矢野特殊自動車は、2022年の会社創業100周年に向けてスローガン



ローリ工場のタンク製造工程

“Shoot the next Arrow”(次世代の矢・アローを放とう)を掲げ、お客様の「輸送品質と輸送効率の技術パートナー」



冷凍車パネル製造工程  
(バン工場)

としての価値実現を全社一丸となって進めており、冷蔵・冷凍車をはじめ、ウイング車、各種タンクローリー、車両運搬車、航空機関連車両等を扱っている。当日は工場見学をはじめ、カーボンニュートラルへの取組み、設備・治工具類の導入事例の紹介、営業マン教育についての取組み等のプレゼンテーションと質疑応答を行い、参加者からは大変参考になったとの声が聞かれ、有意義な訪問ヒヤリングとなった。

## ■中小会員ネットワーク強化ワーキング 「営業マン勉強会」を開催

中小会員ネットワーク強化ワーキング(リーダー・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、昨年発行した「自動車車体業界の将来ビジョン」の達成にむけ、お客様の困り事への対応力を高めるために営業マンの育成に取り組むこととし、第1回の「営業マン勉強会」を中小ネットワーク強化ワーキング委員の3名(札幌ボデー工業(株)堀田社長、(株)浜名ワークス田村社長、山田車体工業(株)山田社長)をアドバイザーとして迎え、10月28日にWebで実施した。13社20名が参加し、各社の営業マンの関心事を共有することから開始した。

今後、具体的な取組みテーマを決め、少人数のチーム活動により、アドバイザーからのご支援をいただきながら、各社の営業マン共通課題の解決を進める。

### 特装部会

#### ■工場見学会を実施

清掃車小委員会(座長・山田大二・㈱モリタエコノス技術部設計三課課長)では、今年度3回目の小委員会をメンバー会社である兼松エンジニアリング㈱(高知県高知市)にて、11月25日、4社9名が参加し同社の新工場見学会と共に実施した。

強力吸引車のトップメーカーである同社が今年9月より稼働した新工場を見学。廃棄物の収集運搬で活躍する強力吸引車を製造する全行程と共に、最新設備による優れた品質管理や生産効率を生み出す組立現場の最前線を紹介いただいた。

同社の品質や生産面だけでなく、年次点検制度の推進など人材育成や新人教育に対する取組み姿勢にも大変感銘を受ける等、とても有意義な見学会となった。



※集合写真撮影時のみ一時的にマスクを外しております。

### 特種部会

#### ■工場見学会を実施

特種部会(部会長・青地潔・㈱オートワークス京都社長)では11月19日に合同委員会メンバー13社15名が参加し、㈱オートワークス京都(京都府宇治市)にて、工場見学及び

2021年度第3回合同委員会を実施した。工場見学では、パラメディック(高規格救急車)製造工程、消防車架装工程、メタル工程を見学し、パラメディック工程での「タクトタイマー(作業時間がカウントダウンするタイマー表示)」「お助けベル(工程内で困り事があった時にひもを引くと監督者、指導員が駆けつける)」による生産効率化、消防車工程における「改善」による大幅な工数削減、メタル工程における作業効率化、安全性向上のための治具「くるりんぱ」等をご紹介いただいた。(「くるりんぱ」は、昨年度の設備導入事例で紹介あり。当会HPに掲載あり)各社にとって非常に参考となるものばかりで大変有意義な工場見学となった。

工場見学終了後、第3回合同委員会を実施し、今年度の事業計画の進捗を共有し今後について活発な論議が交わされた。



パラメディック製造工程



消防車架装工程



メタル工程「くるりんぱ」

## トラック部会

### ■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・山田和典・山田車体工業(株)社長)では、11月16日に部会員20社20名が参加し、日軽新潟(株)(新潟県新潟市)の見学会を実施した。

当日は押出成形から接着結合、組み込みなど当会会員会社に関わる全ての製造ラインを余すところなく



部会長挨拶

見学できることには驚かされた。2021年7月にJIS認証取消という処分を受けた中、その信頼回復の意気込みを感じた見学会となつた。

今回の見学会は貴重な体験で、今後のトラック部会会員の活動でも参考にすべき内容であった。



あおり製作工程

### ■「トラック部会向けのカーボンニュートラル勉強会」を実施

トラック部会(部会長・山田和典・山田車体工業(株)社長)では、11月19日にトラック部会向けのカーボンニュートラル勉強会を実施した。内容は、10月26日に当会会員向けに実施したものと同様、講師もトヨタ自動車東日本(株)PE・環境部の松井部長に依頼し、中小企業の多いトラック部会会員に広く理解を深めてもらうことを目的に実施した(8社10名が参加)。

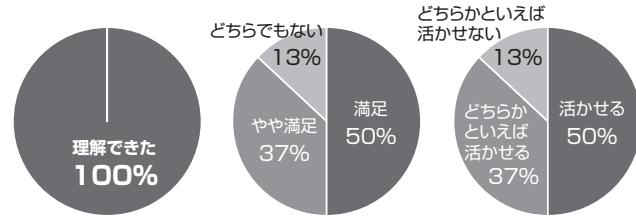
アンケート結果は、参加者全員が勉強会の内容を理解できたと回答。満足度は、「満足・やや満足」が全体の87%となり、「今後のCN取組みに活かせるか」についても、全体の87%が「活かせる・どちらかといえば活かせる」と回答。参加者のCNに対する理解度が深まる、意味のある勉強会となつた。

今後も更に回を重ね、より多くの部会会員の理解を深めていく予定である。

勉強会の内容は  
理解できましたか?

今回の勉強会は  
どうでしたか?

今回の勉強会に参加さ  
れて、自社のCN取組み  
に活かせると思いま  
したか?



### ■日本陸送協会との合同研修会を実施

車両運搬車分科会(分科会長・細谷貞治・細谷車体工業(株)社長)では、11月18日に日本陸送協会との合同研修会を実施、陸送協会からは32名、当会からは細谷分科会長と谷口委員(細谷車体工業(株))、事務局員の3名が出席した。

2年ぶりの開催となり、この2年間の車両運搬車生産台数と22年度見込み台数を報告、安全対策とUN-R158後退時の後方視界確保(バックカメラ)の解説とJABIA規格車両運搬車の構造基準の要点を説明した。また自動車5団体の取組みとして、カーボンニュートラルの勉強会を開催し会員への理解とその対応、対策の情報を共有した。

陸送協会側からは、今後の対応としてEV化後の車両積載重量を懸念しているという意見が出され当会としては来年度の合同研修会にその進捗を報告する確認をした。



## バス部会

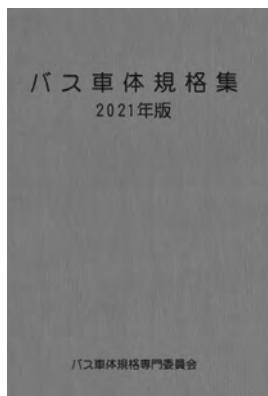
### ■バス車体規格集2021年版を発行

技術委員会(委員長・大島正男・ジェイ・バス(株)宇都宮受注設計部長)は、バス車体規格集を2021年版として5年ぶりに改訂した。

本規格集は、日本バス協会、日本自動車工業会及び当会の代表で構成した「バス車体規格専門委員会」において、バス車体仕様や使用部品の規格化・標準化による生産性の向上に加え、安全性や使用性といった乗客へのサービス向上を目指し編纂している。

今回の改訂では、車内銘板類の多言語化・ピクトグラム

化、刃物持込禁止銘板や安全装置銘板の追加、灯火器のLED化対応等の改訂、及び後退時車両直後確認装置の新法規紹介、車室内モニタシステムの研究報告など、安全に係る情報の追加を行った。



## 資材部会

### ■見学会を実施

資材部会(部会長・小澤賢記・ゴールドキング(株)社長)は、11月19日に8社9名が参加し、スマールワールズTOKYO(東京都江東区)を見学した。

同施設は、2020年6月11日に設立された床面積約8000m<sup>2</sup>の世界最大級の屋内型ミニチュア・テーマパークであり、『宇宙センター』エリア、『世界の街』エリア、『関西国際空港』エリア、『エヴァンゲリオン格納庫』エリア、『エヴァンゲリオン第3新東京市』エリア等に分け、それぞれ80分の1サイズで再現している。日本を代表する多くの企業が参加して日本ならではの精巧な技術と、先端テクノロジーが融合した「動くミニチュア世界」である。特にロケットの発射、飛行機の離着陸、自動車等がエリア内を自動で動き回る光景は見応えがあった。



同施設では高校生から70代までデザイナー、エンジニア、モデラー、プログラマー、マーケッター、プロモーター、シェフ、エデュケーターなど多様な人材が働いており、ワーク施設内でミニチュアの模型の製作も体験できるなど見学だけではなく体験型施設であると言う説明がされた。

資材部会では、コロナ禍の影響により約2年ぶりの見学会となつたが、参加者から大変有意義な見学であったとの声をいただき、充実した見学会となつた。



## NEWS FLASH 支部だより

### 北海道支部

#### ■合同部会を開催

北海道支部(支部長・鎌田直樹・北海道車体(株)常務取締役)では、9月16日、札幌にて14名が参加し、合同部会を開催した。

支部長挨拶では、何かと業務多忙のところ、また緊急事態宣言下中にもかかわらずお集まりいただいたお礼と、今日の合同部会が有意義な部会になるよう願っている旨の挨拶があった。引き続き、部会長報告では、福島トラック・バン部会長(北海道車体(株))、池添トレーラ部会長(日本トレックス(株))、飯澤資材部会長代理(日本ボデーパーツ工業(株))から、①シャシ遅れが続いている、②材料の品薄、特に内装材の合板の品切れが多く代替えの検討を考えている、③材料価格UP等の問題点が報告された。

各社の近況報告では、正会員・地区支部会員へ勧誘やすい魅力ある支部にするための意見交換を、今後実施していくことを確認し、1時間半に亘っての部会を終了した。



### 九州支部

#### ■「支部役員・合同3部会情報交換会」を開催

九州支部(支部長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、12月1日に「支部情報交換会」を福岡市内で開催した。昨年度はコロナ禍の影響で中止したが、今年は16社22名が参加しての開催となった。

各社の近況報告では、各社とも材料費の高騰やシャシの入庫が不透明などの不安事項が報告される一方、新工場の新設が2件、カーボンニュートラルに繋がるボデー再生事業やキャンピングカー・移動販売車の製作等コロナ禍でも前向きに新事業に挑戦している報告もあった。

約2年ぶりに対面での情報交換ができる盛会、そして大変意義のある会となつた。



### 道路運送車両の保安基準等及び保安基準の細目を定める告示等の一部改正について (第183回WP29改正関係)

国土交通省

#### 【改正概要】

##### (1) 道路運送車両の保安基準及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の一部改正

道路運送車両法(昭和26年法律第185号。以下「法」という。)第3章の規定に基づく保安基準について、以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。道路運送車両法(昭和26年法律第185号。以下「法」という。)第3章の規定に基づく保安基準について、以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

①乗車定員10人未満の乗用車及び車両総重量3.5t以下の貨物車には、事故時に車両に関する情報(車速、加速度、シートベルト着用有無等)を記録する事故情報計測・記録装置(EDR: Event Data Recorder)を備えなければならないこととする。

②乗車定員10人未満の乗用車及び車両総重量3.5t以下の貨物車には、対静止車両、対走行車両及び対歩行者の制動要件に加え、対自転車の制動要件に適合する衝突被害軽減ブレーキを備えなければならないこととする。

③タイヤ空気圧監視装置を備えた場合の技術的な要件の適用対象に、車両総重量3.5t超えのトラック及びトレーラ並びに乗車定員10人以上のバスを追加する。

##### (2) 道路運送車両法施行規則の一部改正

国土交通大臣が指定する自動車(型式指定自動車以外の自動車等)について法第59条第1項の規定による新規検査を申請する者が提出すべき書面に、事故情報計測・記録装置に係る基準に適合することを証する書面を加える。

##### (3) 装置型式指定規則の一部改正

以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

①法第75条の3第1項の規定により型式指定の対象となる特定装置の種類に、事故情報計測記録装置を追加する。

②法第75条の3第8項の規定により型式指定を受けたものとみなす特定装置に、協定規則第160号に基づき認定された事故情報計測・記録装置を追加する。

③協定規則第141号等の改訂に伴い、規則番号につい

て変更を行う。

##### (3) 装置型式指定規則の一部改正

以下の改正を行うほか、所要の改正を行う。

##### (4) 道路運送車両法関係手数料規則の一部改正

道路運送車両法関係手数料令(昭和26年政令第255号)第2条第2項の規定に基づき、事故情報計測・記録装置の型式等について指定を申請する者が、保安基準適合性についての審査を受けるに際して独立行政法人自動車技術総合機構に納付すべき手数料の額を、実費を勘案して定めるほか、所要の改正を行う。

### 装置型式指定規則等の一部改正について (第183回WP29改正関係 他)

国土交通省

#### 【改正概要】

##### (1) 「装置型式指定実施要領」の一部改正

①以下の装置が装置型式指定の対象となるに伴い、当該装置に係る装置型式指定基準を追加し、協定規則番号を直接引用する。

- ・「事故情報計測・記録装置」に係る協定規則(第160号)
- ・「軽・中量車の世界統一排出ガス測定法」に係る協定規則(協定規則第154号)

②以下の協定規則の改訂に伴い、装置型式指定基準において直接引用している協定規則番号の改正を行う。

- ・「二輪自動車単体騒音」に係る協定規則(第41号)
- ・「タイヤ空気圧監視システム」に係る協定規則(第141号)
- ・「タイヤ取付」に係る協定規則(第142号)
- ・「衝突被害軽減制動制御装置」に係る協定規則(第152号)

##### (2) 「共通構造部型式指定実施要領」および「多仕様自動車型式指定実施要領」の一部改正

①重量車の新試験法を導入するにあたり、諸元表の記載要領等を改訂

②道路運送車両の保安基準の一部改正に伴い特定共通構造部の範囲を定めた様式を改正

##### (3) 「型式認証実施要領」及び「輸入自動車特別取扱制度」の一部改正

①重量車の新試験法を導入するにあたり、諸元表の記載要領等を改訂

②原動機(電動機に限る)の型式の打刻について、規定するラベル標示等を行うことにより当該型式の打刻位置の一部緩和等を追加

## 審査事務規程の一部改正(第38次改正)

### 自動車技術総合機構

#### 【改正概要】

「審査事務規程」(平成28年4月1日 規程第2号) 別添1(試験規程(TRIAS))の新規追加及び一部改正を行う。

(1) 細目告示に新たに採択された協定規則に対応したTRIASの新規追加(3項目)

- ・ TRIAS 15-R153-01 電気自動車及び電気式ハイブリッド自動車の後面衝突時における燃料漏れ防止試験(協定規則第153号)
- ・ TRIAS 17-R153-01 圧縮水素ガスを燃料とする自動車の後面衝突時における燃料漏れ防止試験(協定規則第153号)
- ・ TRIAS 17(2)-R153-01 電気自動車及び電気式ハイブリッド自動車の後面衝突時における高電圧からの乗員保護試験(協定規則第153号)

(2) 細目告示に既に採用されている協定規則の改訂に伴う一部改正(1項目)

- ・ TRIAS 22-R017(1)-03 座席及び座席取付装置試験(協定規則第17号(乗用等))
- ・ TRIAS 31-J049GTR019- 燃料蒸発ガス試験(世界統一技術規則第19号)

## 審査事務規程の一部改正(第39次改正)

### 自動車技術総合機構

#### 【改正概要】

① 道路運送車両の保安基準(昭和26年運輸省令第67号)及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)等の一部改正に伴う改正

- ・ 乗用車等の座席の衝突等により衝撃を受けた場合における、乗車人員の保護性能に係る基準について、ダミーを搭載した動的試験の導入及び静的試験の要件を強化します。[7-42]
- ・ 電力により作動する原動機を有する自動車(二輪自動車等を除く)の、感電防止装置に係る基準について、冠水走行等の水に対する絶縁保護要件等を追加、前面及び側面衝突試験時の要件を強化[7-26]

② 審査継続となる場合の明確化

- ・ 審査継続となる場合の取扱いの範囲について明確化 [4-7-3]

③ OBD検査について

- ・ OBD検査に係る対象車等である旨の通知方法について規定[5-3-15]

④ その他、審査方法の明確化、書きぶりの適正化等の所要の改正

## 審査事務規程の一部改正について (第40次改正)

### 自動車技術総合機構

#### 【改正概要】

1. 自動車の検査等関係

- (1) 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示(平成14年国土交通省告示第619号)  
以下「細目告示」という。等の一部改正に伴う改正
  - ・ 燃料タンクの注入口等から排気管開口部までの距離の基準を削除する。[7-23、7-25]

2. 自動車の型式の指定等関係

(1) 細目告示等の一部改正に伴う改正

- ・ 試験規程(TRIAS)の新規追加及び一部改正  
[別添1]
  - ① 細目告示に新たに採択された協定規則に対応したTRIASの新規追加(1項目)
    - ア TRIAS 46(2)-R160-01 事故情報計測・記録装置試験(協定規則第160号)
  - ② 細目告示に既に採用されている協定規則の改訂に伴う一部改正(9項目)
    - ア TRIAS 09-R141-02 タイヤ空気圧監視装置試験(協定規則第141号)
    - イ TRIAS 09-R142-02 自動車に取り付けられる空気入ゴムタイヤ試験(協定規則第142号)
    - ウ TRIAS 11-R079-03 かじ取装置試験(協定規則第79号)
    - エ TRIAS 12-R152-02 乗用車等の衝突被害軽減制動制御装置試験(協定規則第152号)
    - オ TRIAS 17(2)-R100(1)-02 高電圧からの乗員保護試験(協定規則第100号(車両))
    - カ TRIAS 17(2)-R100(2)-02 高電圧からの乗員保護試験(協定規則第100号(単品))
    - キ TRIAS 22(3)-R016(3)-04 座席ベルト試験(協定規則第16号(リマインダ))
    - ク TRIAS 30-R041-03 二輪自動車の騒音試験(協定規則第41号)
    - ケ TRIAS 48-R157-01 自動車線維持システム試験(協定規則第157号)

② 細目告示に既に採用されている協定規則の改訂に伴う一部改正(9項目)

- ア TRIAS 09-R141-02 タイヤ空気圧監視装置試験(協定規則第141号)

- イ TRIAS 09-R142-02 自動車に取り付けられる空気入ゴムタイヤ試験(協定規則第142号)

- ウ TRIAS 11-R079-03 かじ取装置試験(協定規則第79号)

- エ TRIAS 12-R152-02 乗用車等の衝突被害軽減制動制御装置試験(協定規則第152号)

- オ TRIAS 17(2)-R100(1)-02 高電圧からの乗員保護試験(協定規則第100号(車両))

- カ TRIAS 17(2)-R100(2)-02 高電圧からの乗員保護試験(協定規則第100号(単品))

- キ TRIAS 22(3)-R016(3)-04 座席ベルト試験(協定規則第16号(リマインダ))

- ク TRIAS 30-R041-03 二輪自動車の騒音試験(協定規則第41号)

- ケ TRIAS 48-R157-01 自動車線維持システム試験(協定規則第157号)

## 検査事務規程の一部改正 軽自動車検査協会

### 【改正概要】

- (1) OBD検査開始に向け、独立行政法人自動車技術総合機構が運用するシステムへ車両情報を提供する必要があり、電算システムに必要な情報を入力するため、OCR申請書様式に新たな項目を追加するための改正を行う。
- (2) OBD検査に係る対象車等である旨の自動車検査証の備考欄記載方法について規定する。
- (3) その他、書きぶりの適正化等所要の改正を行う。

## 冬季の省エネルギーの取組みについて 経済産業省

経済産業省は、2021年11月5日の省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議において、冬季の省エネルギーの取組みを決定した。省エネは、カーボンニュートラルにも繋がり、より一層の協力をお願いする。

<詳しく述べは、以下当会ホームページを参照>  
<https://www.jabia.or.jp/news/11143/>

## 11月は「下請取引適正化推進月間」です! —トラブルの未然防止に発注書面— 中小企業庁・公正取引委員会

中小企業庁及び公正取引委員会は、下請取引の適正化について、下請代金支払遅延等防止法(以下「下請法」という。)の迅速かつ的確な運用と違反行為の未然防止、下請中小企業振興法(以下「下請振興法」という。)に基づく振興基準の遵守を指導すること等を通じ、その推進を図っている。特に、毎年11月を「下請取引適正化推進月間」とし、下請法の普及・啓発事業を集中的に行っている。本年度は以下。

### 1. 下請取引適正化推進講習会の開催(公正取引委員会との連携事業)

オンライン(適正取引支援サイト)により、親事業者の下請取引担当者等を対象に、下請法及び下請振興法の趣旨・内容を周知徹底。

### 2. 適正取引講習会(テキトリ講習会)の開催(中小企業庁独自事業)

日頃感じている、下請取引における疑問や不安を一举に解決。親事業者と下請事業者の適正な取引の推進を図るため、インターネットを活用したオンライン形式での講習会の実施等により、下請法等の普及・啓発を行う。

### 3. 下請かけこみ寺の利用促進(中小企業庁独自事業)

「下請かけこみ寺」(全国48か所に設置)では、中小企業の皆さんのが抱える取引上の悩み相談を受け付けています。問題解決に向けて、専門の相談員や弁護士がアドバイスを行う。

### 4. 広報誌等への掲載・掲示(公正取引委員会との連携事業)

・ホームページ、メールマガジンを通じた広報  
・都道府県や中小企業関係団体、事業者団体等の協力による機関誌等を通じた広報

【公表日】 2021年10月1日

<詳しく述べは以下を参照>

<https://www.meti.go.jp/press/2021/10/20211001006/202101006.html>



## 重藤 勉氏 卓越した技能者(現代の名工)を受賞

重藤勉氏(トヨタ車体株)は板金工程で試作車製作に従事。打出し、絞り、曲げ、溶接等の各種技能を使いこなし、設計要求値±0.1mm以内の部品を作る際にも、その精度を0.01mm以内に収められる高い技能を有し、様々な試作車両を完成に導いた。更に能率向上に繋がる新工法や組付設備の新機構などの提案を次々に行い、改善を主導して会社に多大な貢献をしてきた。

同時に優れた指導力を発揮して後進育成を行い、多数の国家技能検定合格者を育てるなど技能伝承の面でも活躍していたことが認められ、11月8日に厚生労働大臣より2021年度の「卓越した技能者(現代の名工)」として表彰された。心よりお慶び申し上げます。



## 2022年 自動車工業団体 新春賀詞交歓会 中止のご案内

2022年自動車工業団体新春賀詞交歓会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底と、ご参加の皆様の健康・安全を最優先に考慮致しました結果、開催を中止させていただくこととなりました。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

[本件お問合せ先] 一般社団法人日本自動車工業会 03-5405-6118 (総務・事業監理領域)

### 会員情報

■ 入 会	正会員	(株)関西オートサービス 代表取締役 北原 武雄 〒572-0818 大阪府寝屋川市讚良西町7-1 TEL: 072-821-2693 【主要製品】 医療防疫車、キッチンカー 【所属部会】 特種部会
		(株)大類鉄工所 代表取締役 大類 義行 〒134-0083 東京都江戸川区中葛西6-1-6 TEL: 03-3687-2241 【主要製品】 スライドボーダー、セルフローダー、自動歩み装置 【所属部会】 トラック部会
■ 退 会	正会員	(株)ベルリング
■ 本社移転	正会員	(株)室井製作所 〒329-0611 栃木県河内郡上三川町大字上三川2466-1 TEL: 0285-55-1720
■ 代表者変更	正会員	(株)河野ボデー製作所 代表取締役社長 名塩 詔之 (株)パブコ 代表取締役社長 アフマドヴ・ケナン (株)ミクニ ライフ&オート 代表取締役 山田 新治
	準会員	住江織物(株) 代表取締役社長 永田 鉄平 日本ペイント・オートモーティブコーティングス(株) 代表取締役社長 武田川 信次

<訂正とお詫び> 2021秋号P.11において郵便番号に誤りがありましたことを訂正してお詫び申し上げます。  
自動車車体興業(株) (誤)〒105-6111 → (正)〒337-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮4-24-1

## 9月

2日	トレーラ部会／サービス委員会(Web会議)	① トラック協会(山形県)トレーラ研修結果情報共有 ② 2021年度トレーラ部会工場見学会検討
8日	中小会員ネットワーク強化WG (Web会議)	事業計画の進捗確認と論議 ・車体業界将来ビジョン達成のための「営業マン勉強会」の内容、進め方の論議、決定
	バス部会／技術委員会(Web会議)	① R158(後退時車両直後確認装置)自動車技術総合機構等との調整状況の共有 ② バス車体規格集 日本バス協会への説明資料の確認
9日	バン部会／業務委員会(Web会議)	① 登録台数調査の展開方法の確認 ② 2022年度調査の予算確保の確認
14日	中央技術委員会／ISO26262WG(Web会議)	シャシメーカーの架装要領書記載の進捗状況確認
	トレーラ部会／業務委員会(Web会議)	① トラック協会(秋田県・富山県・東京都)トレーラ研修結果情報共有 ② プロモーションビデオ制作検討(予算等)
15日	環境委員会／架装物リサイクル分科会(Web会議)	① 2021年度環境ラベルアンケート結果に基づく取得講習会検討 ② 環境ラベル車工会HP掲載原本確認
	中央技術委員会／突入防止装置技術委員会(Web会議)	8t以下の車両における装置型式指定で認証された変形量の証明に関する意見交換
16日	第2回カーボンニュートラル専門委員会 (Web会議)	① アンケート回収状況確認 ② CN勉強会(案)論議 ③ 自動車5団体連携活動の進捗確認 ④ 日本トラックリファインパート協会との意見交換報告
17日	特種部会／合同委員会(Web会議)	① 事業計画の進捗状況の共有と論議 ② 車体NEWS冬号「表紙写真」の論議・決定
	トラック部会／業務委員会(Web会議)	①撮影協力会社募集方法の確認 ②撮影内容(シナリオ)の確認
21日	環境委員会／工場環境分科会(Web会議)	① 2020年度車工会CO2実績及び事例の共有 ② 2020年度車工会VOC実績及び事例の共有
	特装部会／業務委員会(Web会議)	① 2021年度事業計画の進捗報告と課題についての対応確認 ② 各分科会の報告
22日	特装部会／技術委員会(Web会議)	① 事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ② 多仕様自動車全幅諸元値超え時のR46新規検査対応について確認
24日	中央技術委員会／点検整備推進分科会 (Web会議)	① 架装物の安全点検制度運用状況の確認 ② 制度の普及と点検実施率向上策意見交換
28日	第1回支部連絡会 (Web会議)	① 支部事業活動の共有と良いとこどり活動について論議 ② 車体業界の動き及び地域特有情報の共有
	特装部会／サービス委員会 (Web会議)	① メンテナンスニュースNo52配信の報告 ② メンテナンスニュースNo53内容の確認
29日	特装部会／清掃車小委員会 (Web会議)	① 事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ② ISO TC297、TC195の進捗状況の共有
	トレーラ部会／技術委員会 (Web会議)	① R58-03改訂適用日以降の状況確認 ② 2021年度環境ラベルアンケート結果を情報共有
30日	中央技術委員会／架装物コネクテッドWG (Web会議)	自工会大型車部会合同会議結果を踏まえた対応方法確認

# 10月

1日	バン部会／技術委員会(Web会議)	①新規届出書の記載ガイドブック改訂のレイアウト確認 ②バン型安全輸送ニュースNo5原稿読み合わせ
5日	トレーラ部会／ サービス委員会(Web会議)	①トラック協会(東京都)トレーラ研修結果情報共有 ②2021年度トレーラ部会工場見学会検討
6日	第2回環境委員会(Web会議)	①環境ラベル取得講習会の進め方討議 ②2020年度車工会CO2・VOC 実績及び事例の共有
7日	バス部会／業務委員会(Web会議)	新型コロナウイルス禍でのバス市場の共有
6日	第2回中央技術委員会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②技術発表会テーマの確認
7日	第3回カーボンニュートラル専門委員会 (Web会議)	①アンケート回収状況最終確認 ②CN勉強会準備状況報告 ③車体工業会CO2排出量目標値について論議 ④日本冷凍空調工業会との意見交換報告
	特装部会／ ミキサ車技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②JABIA規格「ミキサ車のドラム製作基準」の改正内容の確認
8日	第2回中央業務委員会(Web会議)	①事業計画の進捗状況の共有と論議 ②働き方改革アンケート結果の共有と対応の論議・決定
11日	特装部会／ 塵芥車技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②JABIA規格「塵芥車の製作基準」の改正内容の確認
12日	特装部会／ 脱着車技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②脱着装置付コンテナ自動車の解説の改正内容確認
	トラック部会／技術委員会(Web会議)	①点検整備車型追加の原稿確認 ②平ボデー等の安全対策写真提供
13日	バス部会／技術委員会(Web会議)	①R158(後退時車両直後確認装置)自動車技術総合機構等との調整状況の共有 ②バス車体規格集2021発行に向けた最終確認
	常任委員会(当会会議室+Web会議)	①2022年度予算立案に関する考え方について論議 ②新型コロナウイルス感染状況等を踏まえた車工会活動論議
14日	第263回理事会 (当会会議室+Web会議)	①審議事項 第1号議案 新入会員に関する件 ②報告事項 1) 2021年度事業計画 本部・部会・支部別2/4期実績まとめ 2) 2021年度2/4期 収支実績まとめ 3) CN専門委員会活動 4) CO2・VOC排出量フォローアップ結果(2021年度集計値) 5) 2021年度環境ラベル取得推進 今後の進め方 6) 2020年度 会員企業の売上高/従業員数まとめ 7) 2020年度 PL保険加入状況とPL事故事例 8) 2021年度JABIA規格化・標準化/共通化/調査研究 9) 2022年度税制改正要望書 10) 最近の商用車販売及び会員生産台数 11) 最近の官公庁情報 12) その他報告事項
	講演会 (当会会議室+Web会議)	三菱ふそうトラック・バス(株)による講演会を実施 テーマ 「2021年度大型トラック・バスの市場動向と 三菱ふそうの取組みについて」
15日	環境委員会／工場環境分科会(神奈川)  特装部会／ ダンプ技術分科会(Web会議)	CO2・産廃一元支援活動訪問(株)トノックス)
		①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②ダンプ車の安全性向上について意見交換

## 10月

19日	中央技術委員会／テールゲートリフタ技術分科会(Web会議)	事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換
20日	特装部会／ローリ技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②サイトグラスの評価に関する試験内容と進め方確認
	環境委員会／工場環境分科会(東京)	CO2・産廃一元支援活動訪問(株)東洋ボデー ▶P.12
21日	特装部会／粉粒体運搬車技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②JABIA規格「エア圧送式粉粒体運搬用バルク車の標準仕様」の改正内容の確認
22日	秋季会員大会(東京+Web会議)	2021年度秋季会員大会を開催 講演会「SDGsで自分を変える、未来が変わる」 講演者：川廷昌弘氏(株)博報堂DYホールディングス) ▶P.3 ▶P.5
25日	中央技術委員会／バックカメラ義務化対応WG(Web会議)	①審査検査方法に関する自動車技術総合機構等との調整内容の共有 ②今後の取組みについて意見交換
26日	第1回カーボンニュートラル勉強会(Web会議)	20社を対象に以下内容の勉強会を開催 ・カーボンニュートラル(CN)とは? ・アンケート結果 ・CNになぜ取り組む必要があるのか? ・CN取組みの進め方 ・まとめ ▶P.10
27日	特装部会／クレーン技術分科会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②車両前端がオーバーハングした場合の警音器音圧対応の意見交換
	トレーラ部会／技術委員会(当会会議室+Web会議)	①自工会との情報交換：タイヤデータ共有、バックアイカメラ採用時期 ②CS/SU検討会の情報共有
	中央技術委員会／架装物コネクテッドWG(Web会議)	①大型4社へ要望する「通信仕様お願い書」の確認 ②会員展開計画の「コネクテッドガイドライン」について意見交換
	中央技術委員会／架装物動力源検討WG(Web会議)	電動化に伴う委員各社の動力源に関する要望について意見交換
28日	中小会員ネットワーク強化WG／営業マン勉強会(Web会議)	2020年度策定した「車体業界の将来ビジョン」達成の方策のひとつとして、13社20名による第1回勉強会を開催 ▶P.15
	トレーラ部会／業務委員会(当会会議室+Web会議)	①プロモーションビデオ制作検討(シナリオ見直し等) ②今後の業務委員会活動相談
	特装部会サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.53レイアウト確認 ②ポスター写真掲載分の調整
29日	中央業務委員会／管理監督者層合同研修会(当会会議室+Web会議)	「基本的なリーダーシップ教育とコミュニケーション能力向上」を目的に外部講師を迎えるオンラインで11社21名が参加 ▶P.15

## 11月

1日	トレーラ部会／サービス委員会(当会会議室+Web会議)	①2021年度トレーラ部会工場見学会検討 ②点検整備の手引き見直し日程確認
4日	第4回カーボンニュートラル専門委員会(Web会議)	①アンケートまとめ報告 ②第1回勉強会結果報告と第2、3回開催計画の論議 ③パンフレットその3の内容確認、論議 ④自動車5団体活動進捗状況の共有
9日	中小会員ネットワーク強化WG／訪問ヒヤリング(福岡)	①事業計画の進捗状況の共有と論議 ②(株)矢野特殊自動車訪問ヒヤリング ▶P.15

10日	バス部会／技術委員会(Web会議)	①R158(後退時車両直後確認装置)自動車技術総合機構等との調整状況の共有 ②次年度活動テーマについて意見交換
16日	トラック部会／工場見学会(新潟)	日軽新潟(株)で工場見学実施(20社20名が参加) ▶P.16
	中央技術委員会／架装物コネクテッドWG(Web会議)	①大型4社へ要望する「通信仕様お願い書」の確認 ②当会内展開予定のコネクテッドガイドライン骨子の確認
18日	環境委員会／架装物リサイクル分科会(Web会議)	①環境ラベル取得講習会 教材内容確認 ②環境ラベルJABIA規格改訂打合せ ③環境ラベルポスター配布数決定 ▶P.13
	トラック部会／車両運搬車分科会合同研修会(東京)	①日本陸送協会との合同研修会を実施 ②車両運搬車の生産状況報告と安全対策を確認 ▶P.17
	特種部会／合同委員会(京都)	①事業計画の進捗状況の共有と論議 ②(株)オートワークス京都工場見学 ▶P.16
19日	トラック部会／カーボンニュートラル勉強会(Web会議)	トラック部会会員9社11名を対象に以下内容の勉強会を開催 ・カーボンニュートラル(CN)とは? ・アンケート結果 ・CNになぜ取り組む必要があるのか? ・CN取組みの進め方 ・まとめ ▶P.17
	資材部会／第一分科会見学会(東京)	「SDGs」をテーマにスモールワールズTOKYOの施設内見学を実施 ▶P.18
22日	安全衛生活動WG(Web会議)	①会員提供の労働災害事例8件の内容研究 ②日頃各社で活用している安全チェックシートの共有
	環境委員会／工場環境分科会(Web会議)	①2020年度車工会 産廃実績及び事例の共有 ②環境をテーマとした工場見学会訪問先相談
24日	特装部会／業務委員会(Web会議)	①2021年度事業計画の進捗報告と確認 ②各分科会の報告と対応について意見交換
	特装部会／清掃車小委員会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②ISO TC297,TC195の進捗状況の共有
	環境委員会／工場環境分科会(千葉)	CO2・産廃一元支援活動訪問(京成自動車工業(株)) ▶P.12
25日	特装部会／清掃車小委員会 工場見学会(高知)	兼松エンジニアリング(株)工場見学実施 ▶P.16
	トレーラ部会／技術委員会(当会会議室+Web会議)	①CS/SU検討会の情報共有 ②2022年度調査研究テーマ検討
26日	特装部会／技術委員会(Web会議)	①事業計画の進捗状況確認と課題対応について意見交換 ②後退時警報国内採用WG募集に向け意見交換
	トラック部会／業務委員会(当会会議室+Web会議)	①プロモーションビデオの撮影協力先の選定 ②2022年度テーマを検討
29日	自民党自動車議員連盟主催「自動車政策懇談会」(東京)	自動車関係団体の2022年度税制改正要望の説明と意見交換 ▶P.14
	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.53原稿確認 ②ポスターレイアウト検討
30日	環境委員会／架装物リサイクル分科会(当会会議室+Web会議)	環境ラベル取得講習会 #1、#2(特種部会会員)を開催 ▶P.13
	第3回広報委員会(Web会議)	①事業計画の進捗状況共有と論議 ②車体NEWS2021冬号の校正と2022春号の企画論議



## 会員会社紹介 Vol.105



斎藤 賢一 取締役社長



### DATA

■本社 ☎061-1192 北海道北広島市西の里東4丁目11-10  
TEL 011-375-3000  
FAX 011-375-3300  
URL <https://www.kogensha.net/>

■資本金 1,000万円

■従業員 14名

■事業所規模(本社工場)

敷地 2,380m<sup>2</sup>

建坪 921.59m<sup>2</sup>

■車体工業会加入

2017年(特種部会)



KOGENSHA  
AUTO PRODUCTS



# 光源舎オートプロダクツ(株)

## 国内唯一のワンストップサービスの 幼児専用車製造メーカー

光源舎オートプロダクツ(株)は高い安心と安全を求められる幼児バス専門メーカーのトップランナーとして、顧客との直接対話による商品開発と直販体制にこだわり、北海道らしい大きく自由な発想で子供たちの笑顔のためにできることを追求し続ける夢のある会社だ。

取材／車体工業会業務部長 小森 啓行

### ● 特徴・沿革

1982年創業者である中島輝司氏が有光源舎を設立。オリジナルカスタムカーやキャンピングカーなどの製造を行う。

1987年に国鉄民営化を記念して汽車型車両の開発を行い「移動販売車」や「放送宣伝車」として全国各地の様々なイベント会場やマスメディアなどで活躍をした。

1990年頃より現在の主要販売先である学校法人(幼稚園)や社会福祉法人(保育園)への幼児専用車の製造販売をスタートする。

汽車型、動物型など様々なカタチをした車両が、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で同社が製造販売した幼児専用車が走り、総販売台数は2,000台を超える。

2005年頃よりワゴン車サイズでありながら大人数の乗車が可能な幼児専用車「小次郎シリーズ」を開発し、販売をスタート。個別送迎に対応

した小型車両の製造販売を本格化。

2015年には発明活動に対して与えられる「東久邇宮記念賞」を受賞している。

現在は幼児専用車に付随したアフターパーツの開発、販売も積極的に行っている。

北海道開拓の功労者として知られるクラーク博士が残した“Boys, be ambitious(少年よ、大志を抱け)”という言葉を、「自由な発想から新しい時代を拓くチャレンジ精神をいつまでも發揮する」という決意に繋げて、社会の一員として人と人との繋がりを最も大切にしてきたという。

創業以来一貫して、顧客との直接対話による商品開発や製造、そして直販体制にこだわり続け、社会とともに、顧客のニーズに応える技術を磨き、更なる革新に取り組むことで幼保業界に貢献し続けていくことを目指している。

## ● 製品

### — 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

企画・設計・製造・販売・登録・納車・パーテ販売、取付を含んだアフターサービスまで一貫して行う、国内唯一のワンストップサービスの幼児専用車製造メーカーです。

中型バスまで塗装可能な専門大型ブースと小次郎クラスの車両を塗装する中型専用ブースや、FRP製品をつくるための専門設備を備え、企画デザインをすべて専用ルームで行います。

電話連動の顧客管理システムを導入して、最速のアフターサービスを実現しています。



塗装ブースやFRP設備を整えて、ワンストップサービスで対応



「L.L.Bean社」のイベントカー「ブーツモービル」も制作

### — どのような製品を手掛けているのでしょうか?

子どもたちに人気の汽車や犬、猫のカタチをした「ドリームバス」や、大人数が乗車可能な幼児専用ワンボックス車「小次郎シリーズ」を中心に、子どもたちに喜んでもらえる車両を製造しています。ラインナップにない特注バスの製造も、打ち合わせから、デザインの提案、完成、納車まで一貫して弊社で対応しています。

お客様の「あつたらいいな♪」のご希望に添えるよう、自由な発想で工夫を凝らす心がけています。オリジナルの技術で幼児に最適化したインテリアを装備した車両で、快適な乗り心地と安全を両立した送迎バスを製作しています。



ワンボックス車ベースの「小次郎シリーズ」はコンパクトで人気が高い



汽車や犬の架装をした小次郎シリーズ



マイクロバスベースの「ドリームバス」  
ニャンニヤンバス



ワンワンバス

### — 御社の経営方針は?

ますます多様化するニーズにいち早く応えるために、創業以来大切にしてきた「一歩前」を見据えた製品づくりをこれからも続けていきます。

また従来は手作業に依存してきたFRP製品の型作りのデジタル化を実現し、よりスピーディに多くの種類の製品を世に出せるよう技術改革を行っていきます。

## ● 人

### — 御社の特徴は?

毎朝、朝礼担当者が「今日のひとつ」とを述べることを20年間継続しています。仕事以外の趣味や日常を話すことにより社員間のコミュニケーションを円滑にしています。

すべての従業員が品質の高い製品を日本全国に届けられるように「無理」「無駄」「むら」を減らし、「きれいに」

「早く」「確実に」を心がけ、技術革新と製品開発に勤しんでいます。

工場では日頃から、より正確、丁寧、迅速な作業を行うため整理整頓を特に励行しております。

### — 次世代の教育について

作業ごと(塗装・溶接・デザイン立案等)に個々の能力を見極め、難度

の高い技術を習得できるよう目標を決めて練習しています。



## 最高レベルの改ざん防止機能ラベル

日本カーバイド工業(株)

日本カーバイド工業(株)は、1935年に富山の地で創業、80年を超える歴史の中で、事業の多角化と再構築を進め、現在は樹脂重合技術、フィルム・シート技術、焼成技術をコア技術として、多種多様な素材・製品・サービスを提供している。

2017年に、研究開発センターを新設。国内4か所に分散していた研究拠点を集約し、研究効率の向上と開発チームの連携強化を図っている。

### レーザーマーキングラベル「ハイエスカルAXシリーズ」

盗難車や事故履歴等を調べる際に利用される自動車の個々の識別番号(VIN:Vehicle Identification Number)は、1954年に米国を発祥の起源としているが、現在はISOによって定義されており、米国、EUで採用されている。特に盗難事件が多い米国やEUでは、1993年頃にVINの有無で保険料率が変動する制度も導入され、VINの普及につながった。

これまでアルミ板にVINを打刻し、シャシやフレームに固着させる方法であったが、打刻する手間や経年劣化による腐食で番号が読めなくなったり、削り取られたりするため、容易に可変情報を印字可能で腐食劣化がなく、改ざん防止性をも併せ持つレーザーでのマーキングが可能なラベルが求められていた。

日本カーバイド工業(株)にVIN用のラベル開発の相談が持ちかけられた当時、要求スペックの高さは従来のシールラベルの次元を超えていたものだった。

①目視による恒久的な可読性 ②高熱に耐える ③ガソリンに侵されない ④2分以内に剥がせない ⑤剥がすと粉々になる ⑥現場でオンデマンドで作成できる等。



フィルム・シート事業本部 経営企画部 広報 フィルム・シート事業本部  
次長 田中 修 翁持 麻衣子 営業部 主幹 石橋 大輔



©株式会社エスエス／島尾望

これらの難題に応えるには、既存のラベルシールの概念を捨て去り、どのような材料を使って、どのように作ろうかという、全くのゼロからの製品開発が必要であった。

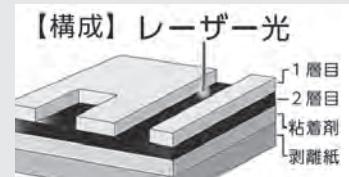
長年に亘り蓄積してきたフィルム材料の知見や、培ってきたフィルム製膜技術を駆使することで、色の異なるアクリル基材を積層し、レーザー光で表層を削り、下層の色で文字を判読させるラベル材料を開発することに成功した。

高耐久で鮮明な印字、オンデマンドで作成する目処は立った。更に、貼りやすく、剥がれない、剥がすと粉々になる機能を付与しなくてはならない。基材や粘着剤の最適な組み合わせを見つけるまでに2年の歳月を要した。

2008年、VINのスペック要求を満たしたレーザーマーキングラベル「ハイエスカルAXシリーズ」をついに発売することができた。

汎用的なレーザー加工機を用いて現場で刻印できるジャストインタイムに対応している点も高評価を得ている。

発売以降も「透かしロゴ」の導入や、ラベルが剥がされた後も紫外線で痕跡が浮かび上がる「UVトッププリント」等、カスタマイズ製品を取り揃え、幾重にも施された改ざん防止機能と高耐久性において、競合製品の中でもNo.1の性能だと自負している。顧客のニーズに応え続けることで、新たな技術を生み出してきた。その姿勢はこれからも、次代に受け継がれ続けていく。



剥がそうとすると粉々になる



↑  
レーザーラベル  
印字動画



日本カーバイド工業(株) 代表取締役社長 杉山 孝久  
「キラリと光る、価値ある企業グループ」の実現とさらなる充実化を目指します。

【本社】 〒108-8466 東京都港区港南2丁目16番2号  
Tel:03-5462-8224 <https://www.carbide.co.jp/>



私たちちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

## 世界50か国、300都市を走る電動バス

ビーワイディージャパン(株)

ビーワイディージャパン(株)は、1995年に中国深圳市で創業した比亜迪(以下BYD社)の日本法人である。中国本社は創業25年で、従業員22万人(平均年齢は33歳)、売上高2.4兆円を誇る急成長企業である。

創業当初は携帯電話やデジカメ用のバッテリーメーカーとしてスタート。2000年代に携帯電話メーカーのモトローラやノキアの正式なバッテリーサプライヤーとなる。2003年に中国の自動車メーカーを買収して自動車事業に進出。2008年に著名な投資家ウォーレン・巴菲特氏率いる投資会社の投資を受け過去5年で株価は5倍以上となっている。

2011年、深圳市で開催されたユニバーシアードに全て自社で設計・開発・製造した電動バス100台を走らせた。

2018年までに深圳市内を走る全てのバスの電動化に貢献し、また約22,000台の電動タクシーを供給し、深圳市内の公共交通は現在はすべて電動化されている。

### 無いものは自分たちで作る圧倒的スピード

2020年、コロナ禍で中国政府は感染拡大防止のため、企業に従業員へのマスクの支給を要請した。BYD社の従業員と家族を合わせると1日100万枚のマスクが必要になったが世界中がマスク不足の中、調達できる見込みはなかった。

では、自分たちで作ろうと、3日間でマスク本体と製造ラインの設計を仕上げ、1週間で生産設備を整え、1か月後には生産・供給を開始した。多くの従業員が24時間体制でマスク製造に携わったという。

社会が求めているものを作っていくことが自分たちのミッションであるとの意識が共有されているBYD社のやる気とパワーを感じるエピソードである。



BYDブランドのマスク  
現在も製造・販売している。



プロジェクト推進部 部長 王斌



2005年に日本法人を設立し、電子デバイス関連のOEM、ODM等を手がけながら、日本企業や日本の文化、サービス品質の大切さを実践で学んできた。

### 日本向けの電動バス「J6」

「J6」は日本人デザイナーを採用して、日本の市場向けに設計された最大31人乗りの量産型小型バスで、1充電の航続距離は200km。上野動物園内の連絡バスに採用され、



全長7m最大31人乗りの「J6」。全長10m最大81人乗りの大型バス「K8」もラインナップされている。

2020年7月に走行を開始した。CHAdE MOの急速充電に対応し、更に独自の放電技術によって、車内に取り付けられた100Vコンセントから直接電気を供給することができ、地域のイベントや災害時の電力供給を担うこともできる。

「中国企業」というビジネス上の障壁を乗り越えるにはアフターサービスの充実に力を入れ、顧客満足度を高めることが重要だとしている。現在、日本国内では京都や長崎、沖縄、福島等の観光地等に大型電動バス「K9」を中心に60台弱が走っている。各地域にパート拠点や協力工場を設置して、迅速なアフターサービスの提供に努めている。

BYD社の電動バスはすでに世界50か国で約7万台が走っている。日本においては、現時点では、「並行輸入車」の取扱いとなり、予備検査を通してから、降車ボタン、方向幕表示器、座席、ノンスリップフロア等の日本のバスの基準に合わせた二次架装をして顧客に納品している。

EU基準に合わせた中国製の部品では、日本の基準や顧客の要望に合致しないことも多く、陸運局に一つひとつ確認しながら日本製の部品を取り付けて、知識と経験値を蓄積している。今後も二次架装における日本製部品の使用比率を増やして、安心とアフターサービスの充実を図り、日本の電動バス市場を活性化していく。

ビーワイディージャパン(株) 代表取締役社長 刘学亮  
Build Your Dreams.

【本社】〒221-0052 神奈川県横浜市神奈川区栄町  
10-35 ポートサイドダイヤビル5階  
Tel:045-620-9788 <https://bydjapan.com/>



# 知りたい

そこが

第51回

## 「インフラ整備?」

2014年冬号で「インフラ長寿命化計画」について道路分野を中心に報告した。2014年6月には「国土強靭化計画」が策定され7年が経過し、今回は「インフラ整備」の視点で、これまでの取組み、現状、そして今後の取組みについて報告する。

## Q1

### 「国土強靭化計画」とは?

2011年3月の東日本大震災の教訓としては、関係省庁、各自治体、民間企業が連携し幹線道路の復旧や拠点空港の機能回復の取組みが行われた。ただし、①原子力発電所の対策不備、②津波被害を受けた土地利用、③実態と乖離していたハザードマップ、④津波対策がなかった空港、⑤防潮堤や水門の設計、⑥地下の電源や機械室の浸水被害、⑦非構造部材の被害などに対しては、既に対応が進められているものもあるが、②・⑥・⑦などは全国的に進んでいない。

そして、東日本大震災を受けての最も大きな政策変更は、当時の安倍晋三政権下で進められた国土強靭化政策である。欧米諸国が持っている「National Resilience Plan(国土強靭化計画)」をわが国も策定することとしたのである。「東日本大震災から得られた教訓を踏まえ、必要な事前防災及び減災その他迅速な復旧復興に資する施策を総合的かつ計画的に実施すること」と明記した国土強靭化基本法が2013年に制定され、2014年に基本計画が閣議決定された(18年に改訂)。



【出典：国土強靭化ポスター内閣官房HP】

## Q2

### 「インフラ整備」の状況は?

#### ◆SDGsとインフラ整備

インフラ整備は、国民が社会生活を安全・安心に送るために必要不可欠である。SDGsでは、17の目標(ゴール)の目標9に「産業と技術革新の基盤をつくろう」が掲げられている。目標9のポイントについて、東京書籍(株)はHPで誰もが理解し易いように、右のように記しており、インフラ整備の必要性を示している。

- ・ 災害に強くて丈夫なインフラを整えて、だれもが使えるようにする
- ・ イノベーション(技術革新)で産業の発展を推進する



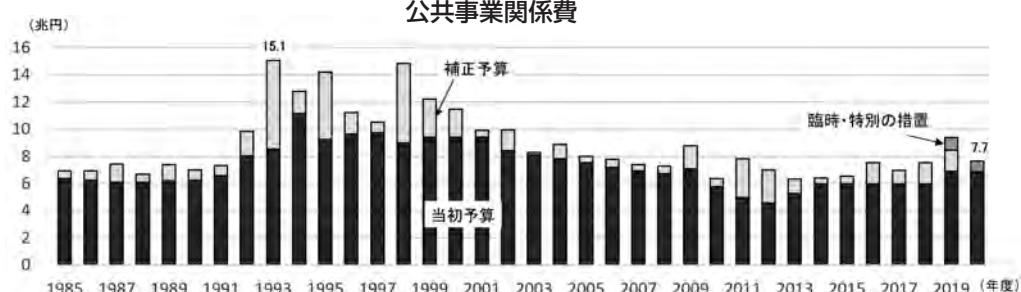
【出典：NEXCO東日本HP】

#### ◆インフラ整備は不可欠

身近なところで、高速道路リニューアルプロジェクトがNEXCO東日本・中日本・西日本等で進められている。これは、高速道路の本体構造物のライフサイクルコスト(役目を終えるまでにかかる全ての費用)の最小化、予防保全(損傷や不具合が生じる前に行う保全方法)や性能向上の観点から必要な対策を行い、高速道路ネットワーク機能を長期にわたって健全に保つためである。高速道路の例でも分かるとおり、構築物、機械は完成・設置した瞬間から陳腐化していくものであることも理解しておかなければならぬ。

#### ◆日本の公共事業関係費

日本の公共事業関係費は、ピーク時から半減している(右図)。ただし、必要なインフラ整備に取り組んでいくことは社会生活の安全・安心にとって重要であることを再認識し、中長期計画に基づき効率的に進めていく必要がある。

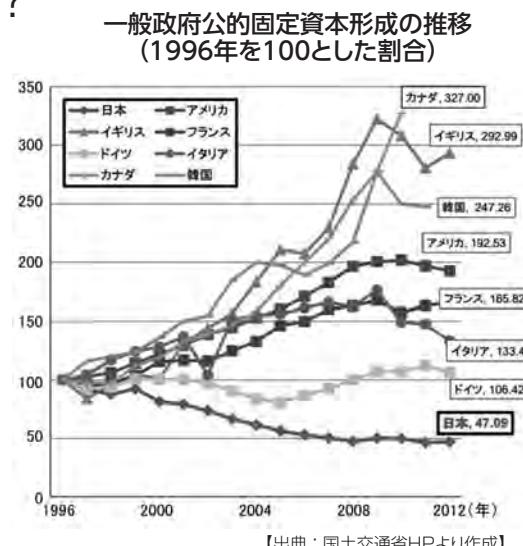


【出典：財務省HPより作成】

# Q3 「海外のインフラ整備」の状況は?

## ◆OECD主要国の状況

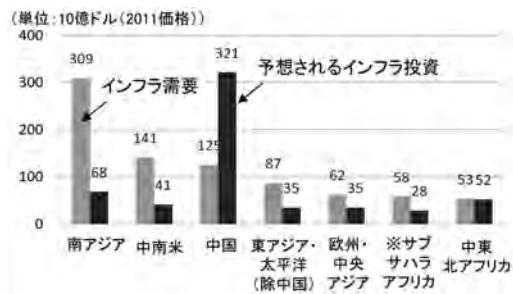
- OECD主要国における\*一般政府公的固定資本形成は増加傾向となるなか、日本はこの15年間で半減(右図)。  
※ 国と地方公共団体の行う社会資本の新設、改良等。公営企業が行うものは含まれない。また、用地費、補償費は含まれない。
- 各国の状況は異なってはいるものの、諸外国の取組みも参考に、インフラ整備に取り組んでいくことは必要。



## ◆インフラ整備が遅れている地域

- 国連広報センターによると、電気インフラがない未電化地域に暮らす人は11億人、交通インフラが不十分で全天候型道路(耐水性・耐熱性・耐衝撃性などを備え、様々な気象条件に対応した道路)に簡単にアクセスできない人は20億人以上いるとされている。こうした地域は発展途上国に多く、特にアフリカや南米、南アジアで開発が遅れている(右図)。
- 国連広報センターは、サハラ以南のアフリカには世界人口の約13%が住んでいるが、道路を使用した貨物輸送量は世界の2%もないと示している。
- 交通インフラの不足は地域同士の交流、生産活動の活性化、物資や人の安定的な輸送などを妨げ、経済の発展を遅らせる要因となっている。
- 日本は培ってきた技術力やこれまでの災害経験を活かし、地域の実態を踏まえたインフラ投資に取り組んでいる。日本の役割は大きく、「働くクルマ」も一端を担うことになる。そして、こうした取組みは、SDGsにもつながるものである。

## 新興国・途上国におけるインフラ需要・投資の将来予測(2014-2020)



\* サブサハラ・アフリカ(Sub-Saharan Africa)は「アフリカの内サハラ砂漠より南の地域」。ただし国際連合の定義では、北アフリカとも一部重複する。

【出典：経済産業省HPより作成】

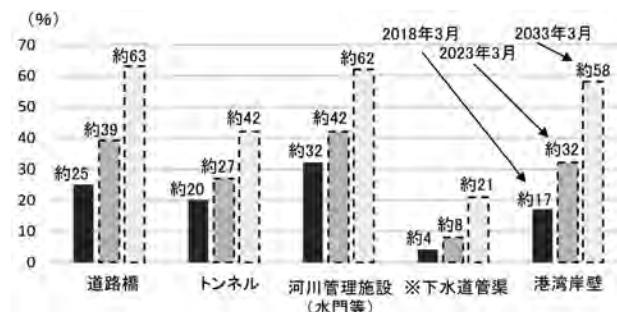
# Q4 「今後の取組み」は?

「国土交通白書2021」では、日本状況を次のように示している。

日本は、災害が起きやすい国土であり、常に災害リスクに直面してきた。これに加え、近年、豪雨災害が激甚化・頻発化するとともに、南海トラフ地震、首都直下地震や日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震といった巨大地震の発生リスクも切迫する。

このような近年の災害の激甚化・頻発化あるいは切迫に対し、防災・減災機能や国民の安全・安心な社会経済活動の基盤となるインフラは老朽化(右図)が進行し、また、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化、災害リスク地域への人口集中、高齢単身者世帯の増加による防災力の低下など、防災・減災に係る課題が新たに顕在化している。

## 建設後50年以上経過する社会資本施設の割合



\* 下水道管渠(かんきょ)

家庭や工場などから集めた汚水を処理場まで運ぶ重要な役割を担い、管渠は、下水管と人孔(マンホール)からなる。

【出典：国土交通白書2021より作成】

日本としては、将来にわたり、安全・安心な社会生活を維持、向上させていくためにも、国や地域のインフラ整備は、SDGsの目標に大きく係わっていることを認識することが大事。SDGsのゴール9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」では、世界各国のインフラを発展させ、耐久性を高め、インフラサービスを安価にすることで、より多くの人々の生活の質を向上させることであり、実現に向け一人ひとりが考え、取り組んでいくことが求められている。

# 働くクルマたち

## 第35回：コンクリートミキサ車

### 1. ミキサ車とは

資料提供：KYB株

一般的に生コンクリートの運搬、又はコンクリート製造のための攪拌装置を備えたトラックを、トラックミキサ、アジテータあるいはミキサ車と呼ぶ。

プラントで練り上げた生コンをドラム内に投入して、そのままの品質を維持するために攪拌しながら現場へ運搬する。

わが国初の生コンクリートプラントが設立されたのは1940年代だが、当時、ミキサ車が国内にないため、生コン運搬にはダンプトラックを使用。このため、運搬途中に生コンの分離がよく問題となり、生コン専用の運搬車が求められるようになる。高度成長期を迎えたあたりから、生コン需要が増加し、大量輸送することに適した現行の方式の傾胴型のミキサ車へ移行した。

駆動方式もトラックのエンジンからドライブシャフト、チェーン、減速機を介しドラムを回転させる機械駆動式から、エンジンで油圧ポンプを回し発生させた油圧でドラムを回転させる油圧駆動方式に移行し、操作性、メンテナンス性が向上した。このような変遷を経て、現在のコンクリートミキサ車の構造となった。



世界最小ミキサ車 MR1221 (KYB)

### 2. マニュアルミキサ車

資料提供：新明和工業株

現場で生コンをドラム内から排出するためには、ドラムを逆回転させる必要があり、このドラム回転操作をレバーで行う形式のミキサ車をマニュアルミキサ車(レバー操作式ミキサー)と呼ぶ。マニュアルミキサ車は国内流通の9割を占め、最もポピュラーな形式のミキサ車。

レバー操作によって投入(攪拌)回転と排出回転をワンアクションで切り替えることができて便利。



GVW20t車級 マニュアルミキサ車

### 3. 低床型シャシ向けのミキサ車

資料提供：KYB(株)

大都市圏で人気のある低床型ミキサ車。KYBでは4.5m<sup>3</sup>ドラム(型式：MR4571)と軽量型5m<sup>3</sup>ドラム(型式：MR5031L)をラインナップ。

軽量型5m<sup>3</sup>ドラムについては、FEM解析によるフレーム構造の見直しで軽量化を実現。また、新開発した軽量ドラムやデフカバーの樹脂化、フェンダやサイドガードにアルミ素材を使用することにより、従来型機(MR5020L)比で約80kgの軽量化に成功。使い勝手や耐久性はそのままに積載性能を高め、輸送効率の向上に貢献。



低床型・軽量化ミキサ車 MR5031L

#### 【主要仕様代表例】

- ① 車両全長：7,890mm
- ② 車両全幅：2,490mm
- ③ 車両全高：3,700mm
- ④ ドラム容量：9.8m<sup>3</sup>
- ⑤ 最大混合容量：5m<sup>3</sup>
- ⑥ 最大積載量：11,500kg

※シャシ型式、上物仕様により異なる。

### 4. 電子制御ミキサ車(eミキサ)

資料提供：KYB(株)

環境配慮に関心が向きつつある中、KYBでは初めて環境配慮型のミキサ車であるeミキサ(電子制御ミキサ車)を2004年より販売。

独自の油圧技術と電子制御ユニットにより、積載負荷の状況を各センサーで検知し、電子制御によって油圧機器の流量を最適に調整することで、エンジン回転数を従来のマニュアルミキサ車の約半分に抑え、低騒音・低排出ガス・省エネを実現。

操作レバーを廃止し、ハンディタイプのコントローラーの採用により、生コンの排出口付近での操作、微調整が可能となり、大幅に操作性が向上。さらに、ユーザーニーズに合わせた自動洗浄や自動混練のプログラム運転、走行時のドラム自動攪拌回転、逆転防止制御といった機能も標準装備。



電子制御ミキサ車 eミキサ

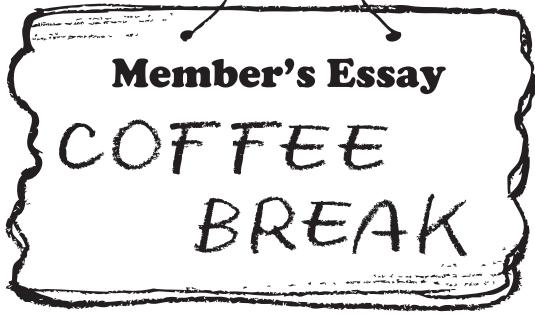


コントローラーで操作

### 5. 生産台数

車体工業会会員会社のコンクリートミキサ車年度別生産台数

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
台数(台)	1,115	1,662	2,248	2,790	2,557	2,195	1,959	1,987	2,233	2,225



## ツーリングを通じて

(株)サンエー 営業 服部 雅史

日常生活を送る中では日々学ぶことがたくさんあります。仕事や学校はもちろん、遊びや趣味の中にもそういう場面があります。

キャンプ、釣り、読書やスポーツ観戦、人によって様々なことがある中で、バイクツーリングもそのひとつです。

私は最近バイクを購入しました。大型自動二輪の免許は持っていないので、普通自動二輪で乗れるバイクですが、今年の6月に納車されました。自然と乗り物が好きな人が集まる業種ですので、私の勤める会社にもバイクが好きな人がたくさんいて、2か月に一度位でツーリングに行きます。おおよその目的地を決め、食事の予約をし、目的地ごとの距離、時間を計算しながら、ルートを決めて当日を迎えます。以前の私は道に疎く、地名を言われても、ちんぷ



んかんぶんでした。ツーリングを通じて次第に道を覚え、地名や名所を知り、美味しいご飯屋さんにも出会えたりと、楽しさの中に計画性の大切さを学べました。

まだまだ未熟な部分も多くある私ですが、少しづつ学んだことを生かし、これからも仕事と趣味を両立していきたいと思います。



新車と筆者

## 鼓動感と輝く瞳

ジェイ・バス(株) 製造部 小林 勉

ハーレーは重厚なデザインでファッショニズムが高く、ダイナミックな鼓動感が魅力です！エンジンが45度Vツインというレイアウトで、ドコトッドコトッと力強い3拍子の排気音を出すことができるのです。鉄馬と言われるHarley-Davidson本物の馬の駆け足のリズムに似ています。「パカタッ♪パカタッ♪パカタッ♪」笑。「綺麗な三拍子」を目指してキャブレターのセッティングを行い、点火時期を微妙にズラして調整を行うと、味わいのある深い三拍子のサウンドが出せるのです。



愛車と愛猫と筆者

ハーレーを観賞していると我が猫のムーチャンとララちゃんが散歩に連れてって～とおねだり。一緒にいると「ゴロゴロ」と喉を鳴らし、スリスリしてきて疲れを吹き飛ばしてくれます。物音に合わせながら動く三角の耳に、ビー玉のように輝く瞳。思わず微笑んでしまいます。ふさふさの毛並みと、個性的な性格が可愛すぎます！普段は触ることができないふにゅふにゅの肉球。寝ている時はその感触を楽しむことができるのです！やわらかくて温かい肉球の感触を味わえるのは、猫との信頼関係があるからこそ！ぐっと肉球を触り開いたり、ふにゅふにゅ押してみたり・・・こっち



を見てゆっくりとまばたきをしている表情、しっぽのフリフリと、喉のゴロゴロ音など、見れば



見るほど猫のしぐさ一つひとつが、心を癒してくれます。そういう猫と憧れの一生物の鉄馬は心地よい気分にさせてくれるので唯一のストレス解消!! 鉄馬の一息一息の爆発した力強い吐く息を音として感じができるのが、鼓動感！・・・太鼓を叩くような大気を震わす振動と音が一体になったもの・・・速さ60キロ位のところで、鉄馬が「パカタッ♪/パカタッ♪/パカタッ♪」と路面を蹴るような力強いトルクで、自分のペースで鼓動を感じながら鉄馬に乗っているのが楽しいです。

うしてもストレスが貯まってしまうことがあります、体を動かし汗をかくことが日常のストレスから解放される時間です。体力も日々持続することで自分が思っていたよりも成長して行きます。その中で自分との戦い



野球少年時代

が数多くあります。それが自分への挑戦だと思います。人間やはり自分自身には甘いと認識しており、日常の中でも意識していないだけあって、数多くの自分との葛藤があると思います。それに打ち勝つことができればまた人として成長できると思っております。仕事にも直結する物があると考えます。何事にもチャレンジすることが次のステップに上がる近道だと思います。体を動かすことは自分への挑戦でもあり心身共にレベルアップする誰にでもできる努力だと思います。私は今後も何事にも負けないチャレンジ精神と積極性を忘れないで歩んで行きたいと思います。趣味の範囲ですがスポーツなど地域の人と交流を持ち一緒に成長できることを目指しております。子供から大人まで一緒に楽しめることができて体を動かす楽しさが共有できれば嬉しいと思っております。こういったご時世だからこそみんなでひとつになることの素晴らしさを伝えに行きたいです。



## 自分への挑戦

（株）花見台自動車 生産管理購買 吉原 功

私は小さい頃から野球をやっており、毎週休日になるのが楽しみでした。小さい頃から体を動かすことが大好きで、大人になった今でも趣味として体を動かしています。日常生活の中で体を動かすことが習慣になっており、健康維持のためにも継続してやっています。日常生活の中でど



## 第8回

会員の誰もが参加できて、SNSの投稿記事を見るような楽しい記事を掲載していきます。皆様のご参加をお待ちしております。

# いどばた会議

## おすすめ文房具

### 架装特装営業マン必携!!

シンワ測定 折たたみ縮尺スケール8面 15cm  
品番:75745

(株)イズミ車体製作所 尾篠 正宏

架装特装車打合せに付き物なのは、メーカー・設計者が丹精込めて作図した図面です。

用紙サイズは、A4～A0までそれぞれ。それでもって、書く人のセンスにもよりますが、縮尺が1/50、1/40、1/20、1/10、1/5、1/2、原寸1/1縮尺があります。

今までは、3角スケールで6種類の縮尺しか、直接測れませんでした。でも、こいつは違います。ペコペコ折る位置によって8種類の縮尺でズバリ測れます。

これであなたも、図面打ち合わせの達人だ!!



### 厚物でも楽チン! サークルカッター

(株)トノックス 穴澤 渉

コンパスタイプのカッターより力を入れやすい形状で、板厚3mmのゴムもスイスイ切れちゃいます。

こいつのおかげで絶版部品(ガスケット)もカンタンに作ることができました。  
厚物材料の円を切るのにとても便利なカッターです。



### リモート業務でも 気持ちの上がる文房具たち

トヨタ自動車東日本(株) 小池 千夏

リモート業務中、コミュニケーションの時間も少ないとことから、見てるだけで上がる文房具にはまっています!



かわいいだけでなく  
機能性高いノート用ポーチ



持っているだけで上がる  
イヤフォンケース



## 私の必需品

美川ボーダー(株) 田中 紀昭

私のおすすめ文房具は、ユニのパワータンクという油性ボールペンです。

特徴はユニ独自のインク加圧技術でインクのかすれが少なく、上向きでも書くことができるため、屋内だけでなく屋外の現場でも使い勝手の良いボールペンです。



## 9年使い続けています

ヤナセテック(株) 鈴木 星也

大学生のころに購入した4色+シャープペンのドクターグリップ。思い返せば長い間使い続けていて、今ではこのペン以外を使うことに違和感を覚えるくらい愛着があります。

(写真は当初学校内で撮った写真)



## 愛してやまないボールペン

イサム塗料(株) 北出 友輔

使い始めて約6年。書き心地がすごくよくて、手が疲れない。字が下手な私でも上手に書けた気でいさせてくれる魔法のようなボールペン。愛してやまないボールペン。部署で3人も使っている人がいるマイナーなボールペン。

uni JETSTREAM おススメです!



## 芯の減らない鉛筆のような書き心地のボールペン♪

(株)オージ 葛西 みなみ

妹のお気に入りのボールペン「ゼブラ ブレン」です。とにかく書きやすい！鉛筆のような書き心地で、ひっかかりがなくさらさら書けるところがお気に入り。

ボールペンは太字派ですが、こちらに関しては0.7mmではなく0.5mmの細字の方が好みだそうです。見た目もシンプルなデザインでgood!



## 小鳥のクリップトレー

(株)オージ 田中 径

卵が磁石になっており、クリップをたくさん乗せると、鳥の巣ができたように見えてとてもかわいいです。小鳥の黄緑色も元気が出るような気がするので、癒されます。

10年くらい前におしゃれ雑貨屋さんで買いましたが、まだまだ使えます！（笑）



次号(2022春号)も“おすすめ文房具”を予定しています。ふるってご参加ください。

トヨタ自動車九州(株)

生産企画部

木戸 翔子さん



我が社の

# 元気人

関係者全員で、  
一致団結する瞬間が  
醍醐味です

一般の方達がSNSで  
話題にしてくれた時  
嬉しくなります

(株)オージ

営業部 企画営業グループ

金子 美穂さん



## Q1 どんなお仕事ですか？

自社の車両生産に必要な部品の物流、海外の工場に部品を届ける物流、また先端技術を用いた物流の企画をしています。カーボンニュートラルやドライバー不足といった社会全体で取り組む課題に対し、貢献できるような企画を立案し、実現に向け、関係者と一丸となって取り組んでいます。

## Q2 仕事で楽しいときは

企画の実現に向け、様々なハードルが出てきた時に、乗り越えるためのアイデアを関係者全員で出し合い、実現に向け一致団結する瞬間が醍醐味です。そのためにもできるだけ現場に足を運び、物の流れ・情報の流れを頭に入れ、最適な物流を提案できるよう努めています。

## Q3 仕事でつらいこと

企画当初は、なぜその企画を実現しなければならないのか、という目的を関係者に理解してもらうことが大変です。また実現に向けては投資の金額やリードタイムといった条件に対しても合意が必要になるため、どうすれば関係者を巻き込むことができるか、企画者の腕の見せ所になります。

## Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

インドへ車両や部品を送るプロジェクトの立上げは印象深いです。自社から海外向けに出荷するのは初めてとなる部品が数百点あり、梱包の仕様や製品の品質確認を何度も重ね、インドのメンバーと一緒に一から作り上げた経験は、私個人だけでなく会社として貴重な経験になりました。

## Q5 御社のPRをしてください！

トヨタ自動車九州(株)は、レクサス車を設計・生産する会社です。九州のサプライヤーの方々と共に「Team Kyushu」を合言葉に、より良く・より早く、私たちの製品を全世界のお客様へお届けすることが使命です。これからもお客様に選んでいただけるような魅力的な車両を提供できるよう、取り組んで参ります。

## Q1 どんなお仕事ですか？

弊社は、バス用機器の設計・開発・製造をしている会社です。その中で私は、行先表示器の表示データを作成する仕事をしています。行先表示器は黄色／白色単色・フルカラーがラインナップされており、社内の専用ソフトで作成しています。

## Q2 仕事で楽しいときは

私が作成した表示データが、バス事業者様の皆様でとても好評だったと伺った時や、SNSで一般の方達が話題にしてくれた時に、自分の作成したもので喜んでもらえたと感じ、私も嬉しくなります。

## Q3 仕事でつらいこと

フルカラーの行先表示器についてデザインや色合いをお客様と会話する際に、細かなニュアンスなど言葉では伝えきれない部分があった時に大変を感じます。その際は何種類かご提案し、お客様のご希望に沿った表示データになるよう対応しています。

## Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

バス事業者様の企画に打合せ段階から参加させていただき、行先表示器でキャラクターをどこまで表現できるか取り組みました。打合せを重ねる中でご希望に沿えず、何度も作り直すことになりましたが、運行に至った時はよう達成感を感じました。

## Q5 御社のPRをしてください！

弊社の製品はバス事業者様だけではなく、乗客の方々にもお使いいただく製品もございます。「バスをご利用する全ての方」が使いやすいモノづくりを、日々目指して取り組んでいます。ご要望いただいたモノ以上をご提案いたしますので、(株)オージをよろしくお願ひいたします！

## 2021年4月～9月 会員生産状況概要

## ① 合計(非量産車+量産車)

- 4月～9月の累計台数は前年比7.0%増と、2年ぶりの前年超えとなったものの、19年比では17.5%減

## ② 非量産車合計

- 4月～9月の累計台数は前年比2.9%増と2年ぶりの前年超えとなったものの19年比では16.5%減
- 特種、バン、トレーラ、大中型バスは前年割れとなったものの、特装、平ボデートラックが前年超え

## ③ 特装車

- 4月～9月の累計台数は、前年比16.5%増と2年ぶりに前年超え
- 輸送系は同14.6%増、作業系・その他は同1.9%増、輸出は同106%増

## ④ 特種車

- 4月～9月の累計台数は、前年比4.4%減と3年連続の前年割れ
- 緊急用が同7.1%増、その他が同9.7%増となったものの、車いす移動車が同14.6%減

## ⑤ 平ボデートラック(除シャシメーカー標準トラック)

- 4月～9月の累計台数は、前年比2.4%増と2年ぶりの前年超え
- 大型は同4.7%減となったものの、小型・軽は同13.0%、中型は同0.1%増

## ⑥ バン

- 4月～9月の累計台数は、前年比4.0%減と3年連続の前年割れ
- 冷凍・保冷車は同2.8%増となったもののバン(除 冷凍・保冷車)は同7.4%減

## ⑦ トレーラ

- 4月～9月の累計台数は、前年比2.8%減と2年連続の前年割れ
- 平床が同3.9%増となったものの、コンテナが同4.4%減、バンが同4.5%減、その他特装系が同3.8%減

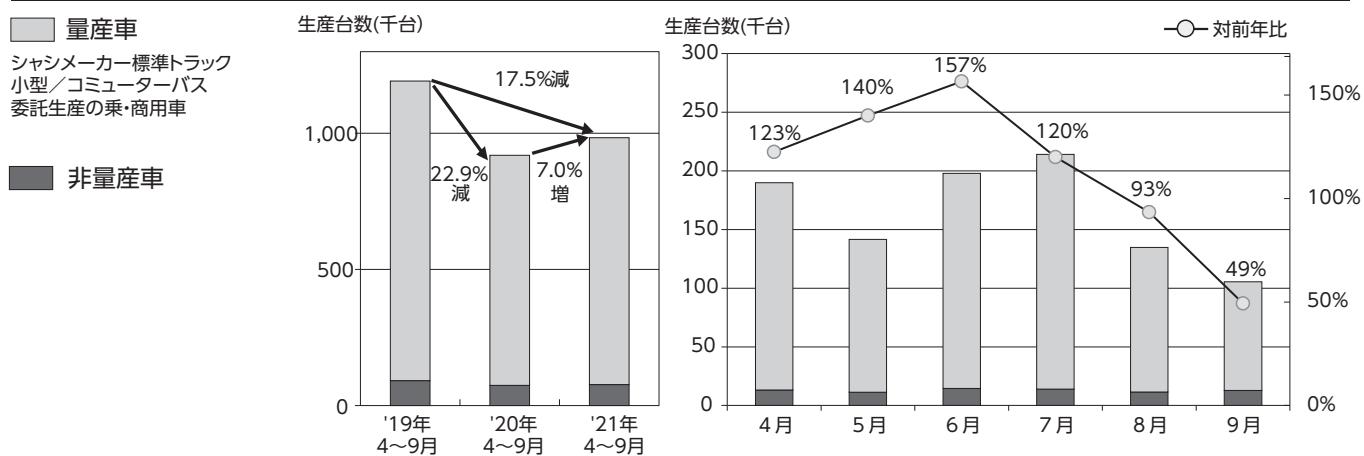
## ⑧ 大中型バス

- 4月～9月の累計台数は、前年比33.5%減と2年連続の前年割れ
- 路線が同29.8%減、観光が同69.9%減、自家用は同18.5%増  
新型コロナウイルスの影響による落ち込みが継続している

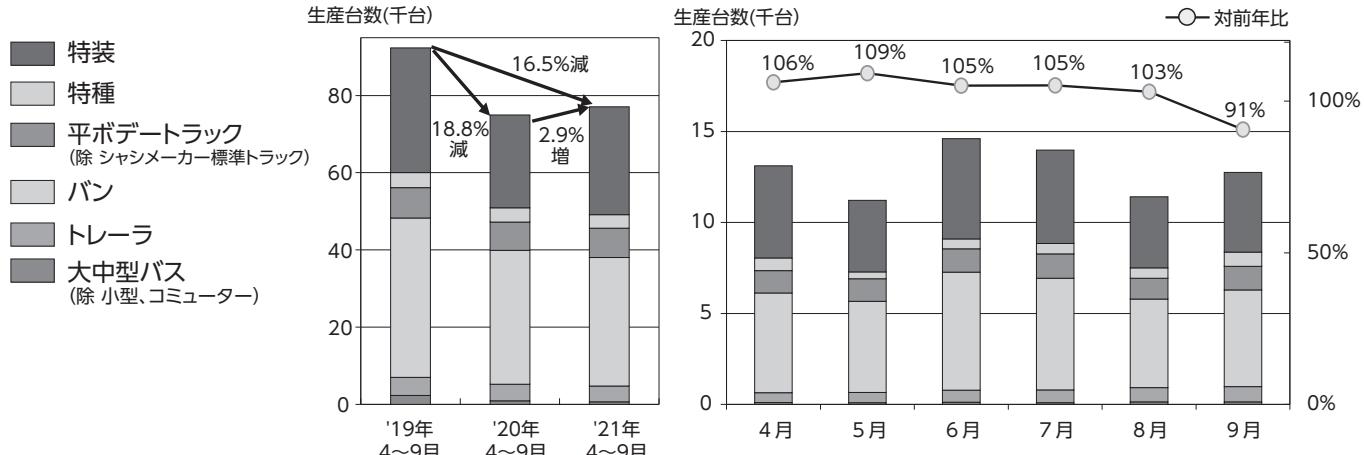
## ⑨ 乗用・小型商用・軽

- 4月～9月の累計台数は、前年比7.0%増と2年ぶりに前年超えとなったものの19年比では15.9%減
- 国内は同3.1%、輸出は10.5%ともに増加

## 合計(非量産車+量産車)

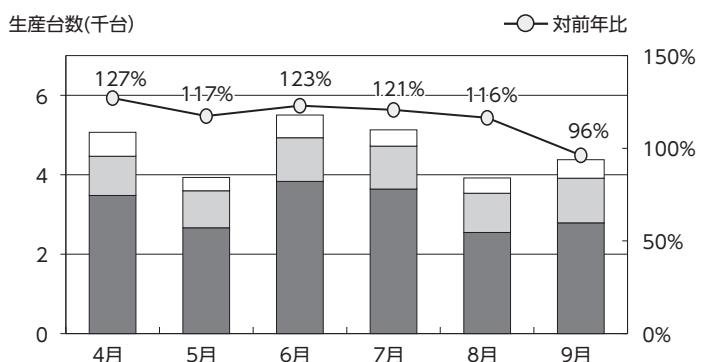
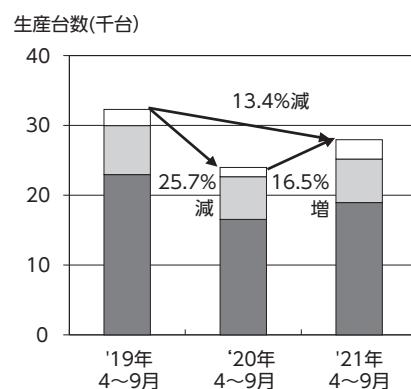


## 非量産車合計



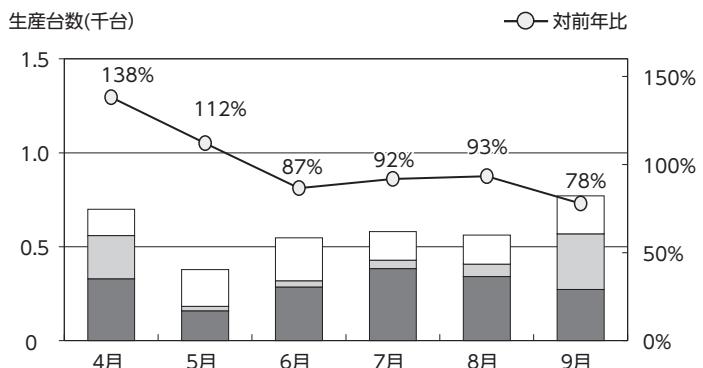
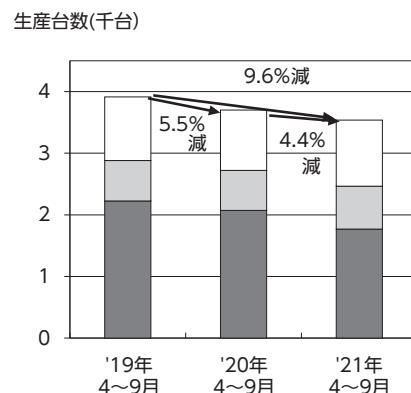
## 特装車

■ 輸出  
■ 作業系・その他  
■ 輸送系



## 特種車

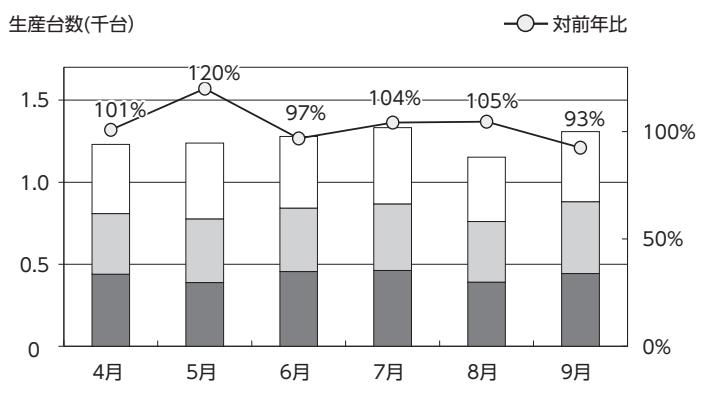
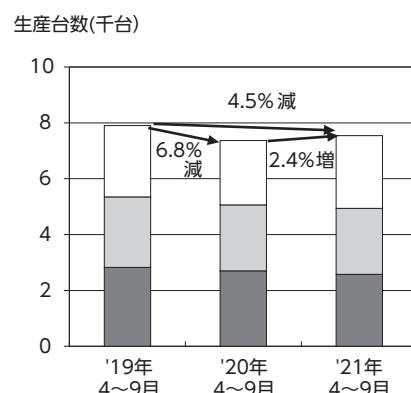
■ その他  
■ 緊急用  
■ 車いす移動車



## 平ボデートラック (除 シャシメーカー標準トラック)

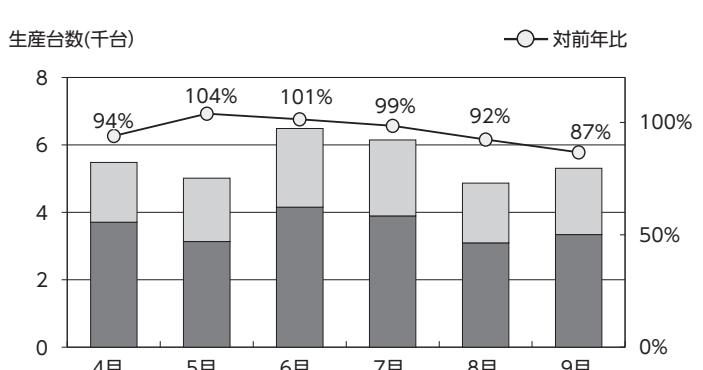
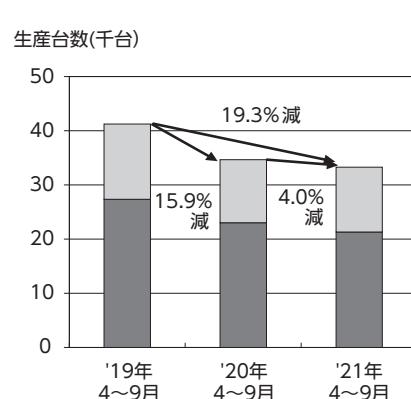
平ボデートラック  
(除 シャシメーカー  
標準トラック)

■ 小型・軽  
■ 中型  
■ 大型



## バン

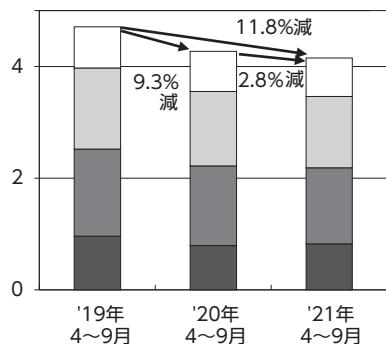
■ 冷凍・保冷車  
■ バン  
(除 冷凍・保冷車)



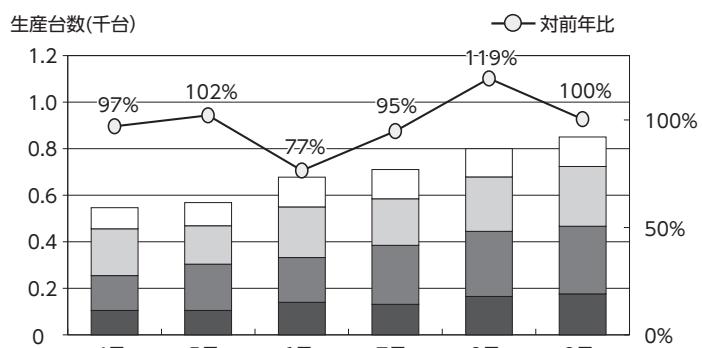
## トレーラ

- その他特装系
- コンテナ
- バン
- 平床

生産台数(千台)



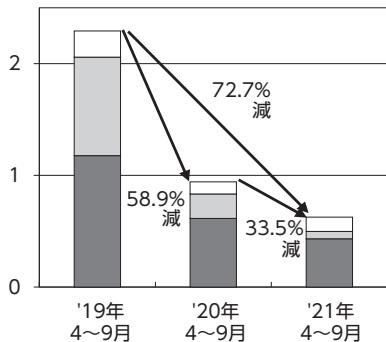
生産台数(千台)



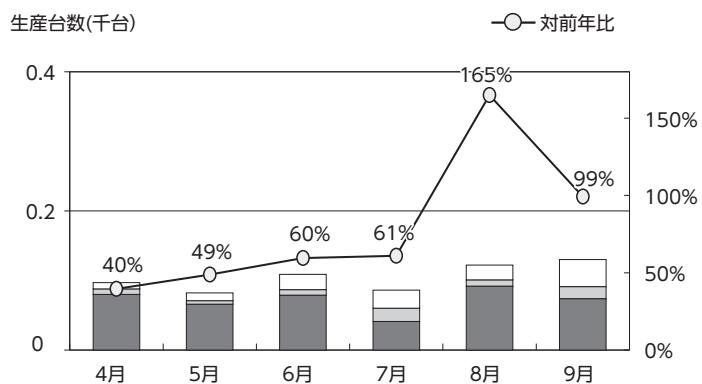
## 大中型バス

- 自家用
- 観光
- 路線

生産台数(千台)



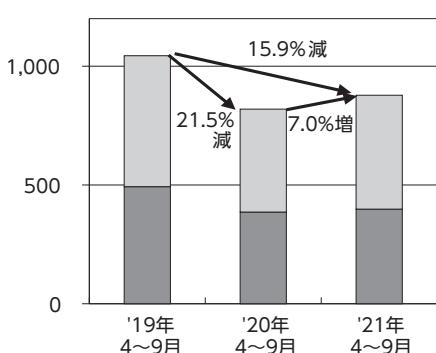
生産台数(千台)



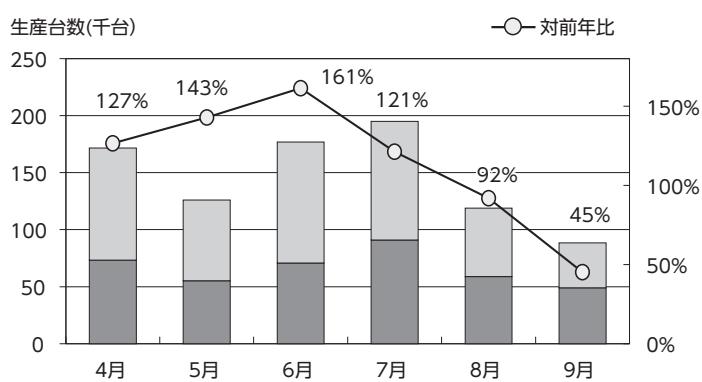
## 乗用・小型商用・軽

- 輸出
- 国内

生産台数(千台)



生産台数(千台)



## 車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<https://www.jabia.or.jp/data/index.php>





## 編集後記

1年前の冬号編集後記では、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、新生活様式が定着してきたことについて、多くの国民がその意義を理解し、強制ではなく自主的に感染防止策に取り組んできたことを記した。

あれから1年が経過し、ワクチン接種も進み、安堵する気持ちになってきた。ところがここに来て、新規変異株「オミクロン(ο)株」が確認された。現時点(12/8現在)でオミクロン株に関する情報は限定的であり、感染力、重症度、ワクチン効果がこれまでの株と、どのように異なるのかは明確になっていないようだ。この1年で新規変異株は、アルファ(α)、ベータ(β)、ガンマ(γ)、デルタ(δ)が確認され、都度、関係各位が対応を検討し、情報提供を行い、一人ひとりが対策を講じてきた。今回もこうした対応が繰り返されるものと考えられるが、抜本的取組みには至っていない気がする。大げさな言い方になるが、あらゆる垣根を取り払い、英知を結集させ、抜本的取組みを考えなければならない時期ではないだろうか。

年末恒例の「現代用語の基礎知識選 2021ユーキャン新語・流行語大賞」が先日発表され「リアル二刀流/ショータイム」に決定した。その年の時世を表すものの一つであり、今回の大賞は野球に関心のない方も含め、大谷選手の活躍が多くの方々の気持ちを明るく、前向きなものしてくれたと思う。2020年の大賞が「3密」であったことを思い起こすと、2021年の大賞は、これから社会生活がこれまでの常識を覆し、2022年が明るく、そして素晴らしいものになっていくことを期待し、予感させてくれるものである。

ただし、これらを実現するのは私たち、一人ひとりである。2022年という道をしっかりと歩んでまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

(吉田)

表紙写真について

特種部会 (株)トノックス製

道路維持作業用

自動車



道路維持作業用自動車は、特殊用途自動車の道路作業車に分類され、道路の維持、もしくは修繕、または道路標識を設置するために必要な特大標識を後方に備えた自動車です。

高速道路で作業することが多いため、荷台は修繕道具等が搭載できるよう広いスペースの確保、また保安基準に適合する黄色回転灯の取り付け、後面に追突衝撃緩衝装置を装備、後続車へ道路情報や道路規制を知らせる標識装置を備えた車両です。

安心・安全な道路空間を届けるために製作された車両です。

### 新職員紹介

業務部次長

**森田 敦次**

カーボンニュートラルを会員の皆様と手を取り合って進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## お知らせ

### ■技術発表会のご案内

- ◆日 時 : 2022年1月20日(木) 14:30~16:45
- ◆場 所 : くるまプラザ会議室  
+ Web (Zoom)併用  
東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館1階
- ◆内 容 : 会員各社の新技術、新製品に関する発表5件

参加費 無料 申込み 当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申し込みください。

問い合わせ先 日本自動車車体工業会 総務部 TEL 03-3578-1681

### ■講演会のご案内

- ◆日 時 : 2022年3月17日(木) 14:30~16:00
- ◆場 所 : くるまプラザ会議室 + Web (Zoom)併用
- ◆講演テーマ : 「コロナ禍の経営戦略におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)  
の取組状況と課題(仮)」  
講演者 : 一般社団法人日本能率協会 KAIKA研究所  
所長 近田 高志 様

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

**車体 NEWS**  
WINTER 2021 冬

### 広告掲載会社

- |                |            |
|----------------|------------|
| ロンシール工業株式会社    | ..... 表2   |
| イサム塗料株式会社      | ..... P.45 |
| スリーエム ジャパン株式会社 | ..... 表3   |
| 損害保険ジャパン株式会社   | ..... 表4   |

# トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

## \*\*\* ブレーキ機器の水分除去のお願い \*\*\*



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

### トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。  
※エア・タンクから大量の水分が排出されるときは、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

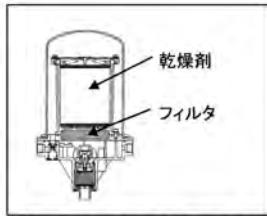
### トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクタ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。



エア・ドライヤの例



エア・ドライヤ内部構造(交換部品)例

### トレーラ リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備

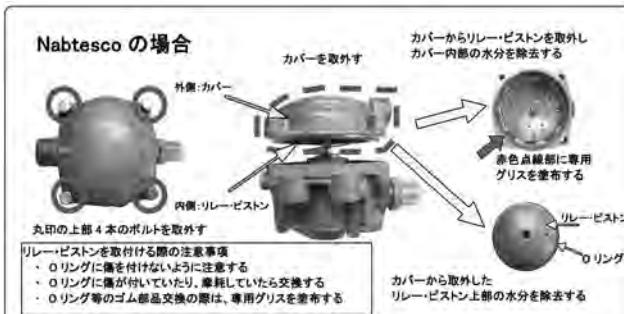
リレー・エマージェンシ・バルブはトラクタから送られたブレーキ用エアをコントロールし、トレーラ各輪のブレーキを作動させる重要な機能を有しています。

ブレーキ用エアに水分や埃が含まれているとブレーキ機器の作動を妨げ、さらに凍結すると作動不良となり危険な状態になります。そのため、冬期に入る前には凍結防止のため必ず点検整備を行い、水分の除去および清掃を実施してください。

#### リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備要領

詳細については各トレーラ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

※ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けてください。



# 塗装で車両の価値UP!! 大型車両の補修・メンテナンスに!!

高品質なボディーに仕上げる!

ハイアートCBエコ

**COM-BOY**  
SYSTEM

優れた作業性

豊富な原色

各種法令へ対応

※一部原色を除く



大型車両  
(バス・トラック)  
架装車両  
特装車両  
等に!

下回りを錆から護る!

ハイアートCBエコ

**防錆コート**



高い防錆力

耐チッピング性

防振・防音効果



足回りが錆でこうなる前に



しっかりガード!!



動画は  
こちら

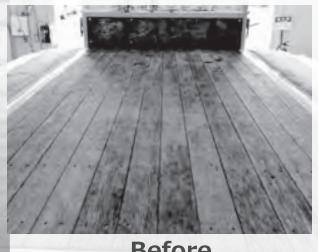
荷台木部(アピトン)を護る!

**ウッドプロテクト**

木部の劣化を防ぐ

圧倒的低コスト

施工は簡単



Before



After



動画は  
こちら



**イサム塗料株式会社**

札幌・仙台・東京・名古屋・滋賀・大阪・広島・福岡

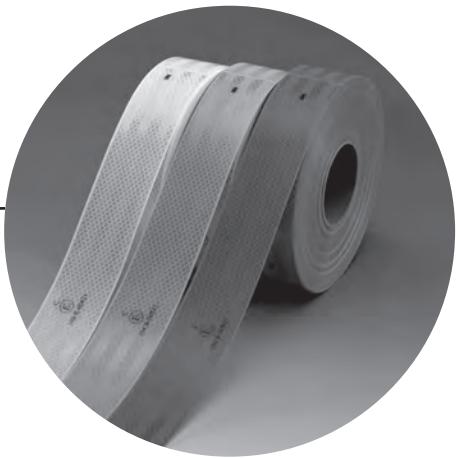


イサム塗料株式会社  
公式チャンネルはこちら



# 美しさと安全性の両立

## Beauty & Safety スリーエムからの提案です。



夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3M™ダイヤモンドグレード™コンスピキュイティ反射シートと3M™反射シート680Eシリーズを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボディをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル™フィルム、コントロールタック™プラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

### 3M™ ダイヤモンドグレード™ コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射効果を備えたブリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

#### ■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。

### 事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関する研究報告

#### ■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面
  - ・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピキュイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

#### ■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

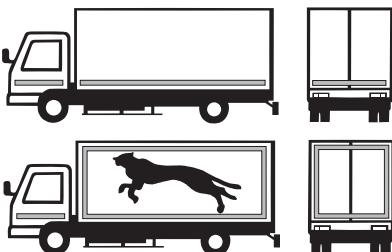
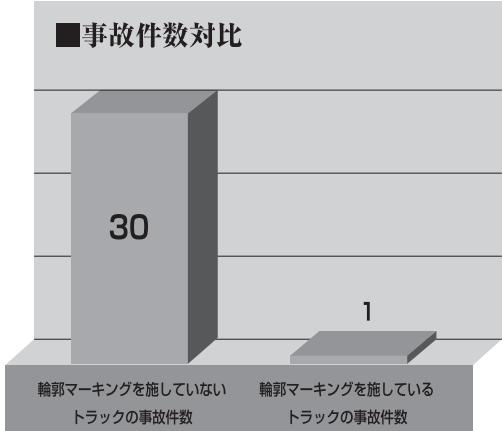
3M™ダイヤモンドグレード™  
コンスピキュイティ反射シート

3M™反射シート680Eシリーズ

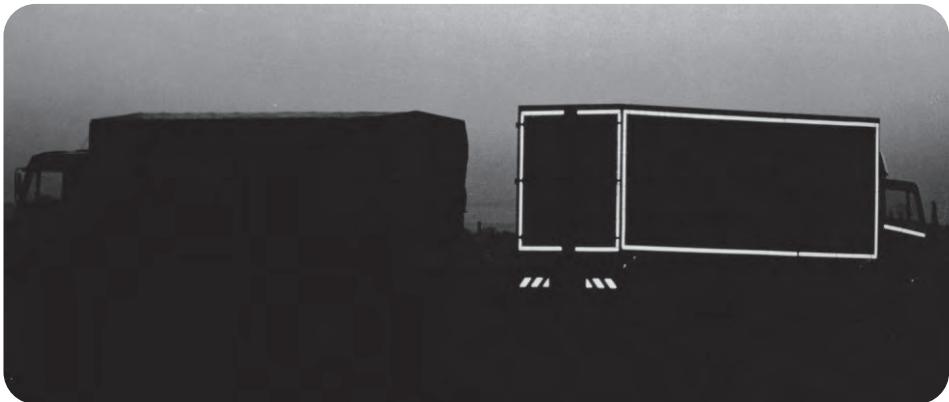
スコッチカル™ フィルム

コントロールタック™プラスフィルム

#### ■事故件数対比



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。



スリーエム ジャパン株式会社  
トランスポーター・セーフティ事業部

本社 〒141-8684 東京都品川区北品川6丁目7番29号  
電話 03-6409-3388  
URL <http://www.mmm.co.jp>

3M

生産物賠償責任保険

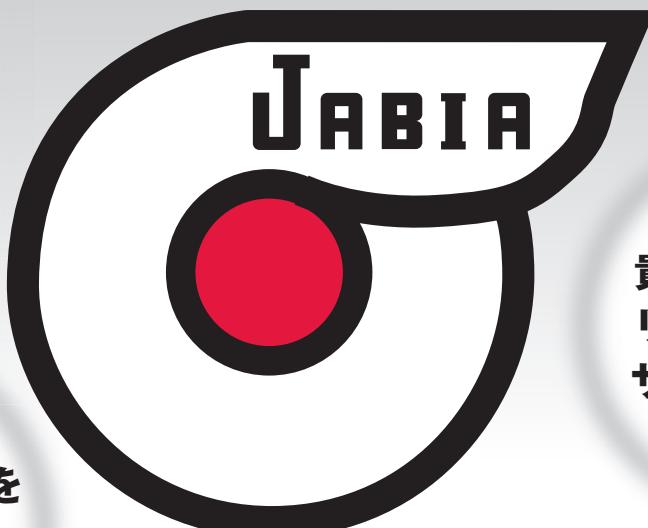
生産物回収費用保険

# 日本自動車車体工業会 団体PL保険制度・ 団体リコール保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の  
皆さまのための  
専用の保険制度。



貴社のPL対策・  
リコール対策を  
サポートします。

スケールメリットを  
生かした割安な  
保険料。

## 制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
- PL保険制度はPL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
- 車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
- リコール保険制度もぜひご検討ください。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

## お気軽にご相談ください

取扱代理店：

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目11番11号 東日本橋Y'sビル7F 株式会社ワイズマン 東京支店  
TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488

ご相談用メールアドレス:jabiahoken@wiseman.gr.jp

引受保険会社：

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損害保険ジャパン株式会社 営業開発部第一課  
TEL. 03-3349-3322 FAX. 03-6388-0155



損害保険ジャパン株式会社